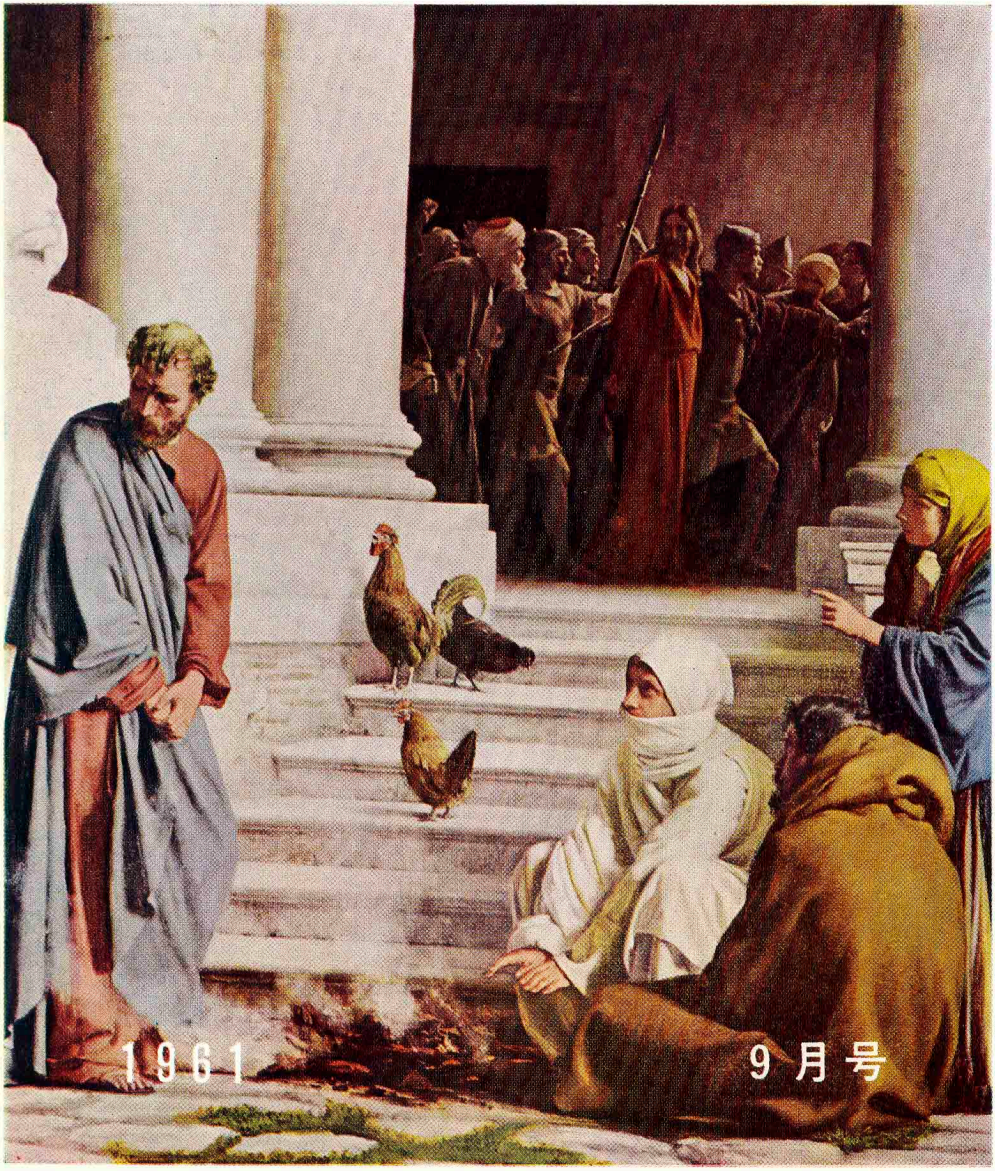
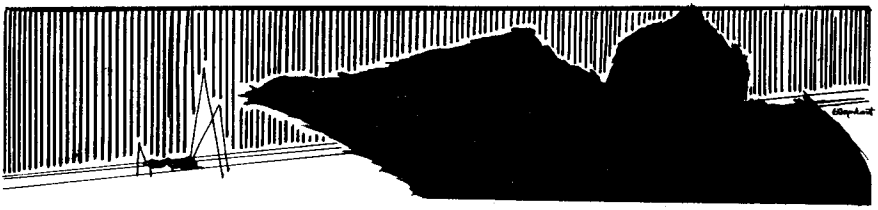
聖徒の道

第五巻第九号 一九五八年三月十七日第三種郵便物認可（毎月一回一日発行）一九六一年九月一日発行



1961　9月号

末日聖徒イエス・キリスト教会



もくじ

予言者のことば……「互いに教えよ」……大管長　デビド・O・マッケイ……四九〇
伝道部長メッセージ……ポール・C・アンドラス……四九三
モルモンの教義……「啓示はつずく」……佐藤龍猪……四九六
幹部メッセージ……「全世界へのメッセージ」……エズラ・タフト・ベンソン……五〇一
「目をあげてみよ」……スターリング・W・シル……五〇七
質問への答……「主の復活以後の復活について」
……ジョセフ・フィールディング・スミス……五一一
練習の讃美歌……五一四
系　図……「日本の基礎民族は希伯来選民の正裔なり」……小谷部　全一郎……五一五

ヤングジェネレーション
勉強と信仰……中田　力……五二一
若きモルモンの責任と義務……島崎　和子……五二三
友情について……中野　正之……五二三
宗教と生活……長谷川　美智子……五二四
アロン神権……「安息日を守るは一人一人の責任」……五二五
メルケゼデク神権……「第一長老定員会の計画」……五二六
子供日曜学校ガイド……十月用……五二七
日曜学校ガイド……十月用……五三〇
MIAエンサインローレル教科課程
「あなたはそれを持って行くことができる」十月五日用……五三四
「肩越しにみてもいいか」……十月十二日用……五三八
MIAリーダー――十月用――……五四三
末日聖徒イエス・キリスト教会歴史粋……ジョセフ・フィールディング・スミス……五四七
伝道本部だより……五五二

1961年9月号

聖徒の道

予言者のことば

「互いに教えよ」

大管長　デビド・O・マッケイ

「われ汝らに一つの誡命を与う。すなわち汝ら互いにこの王国の教義を教うべし」（教義と聖約八十八〇七十七）。

「この王国の教義を教える」召しを受けた人々に私は三つのことを勧める。その一は、教師たる責任を悟ること、その二は教える人々の心に触れる機会を得たことを感謝すること、その三は一人一人が権威と模範とによって教える力をもつことである。

幼児から老人に至るまで人はちがっている。人は庭の千草がちがっているようにそれぞれちがっている。知性に於て、気質に於て、気力に於て、訓練に於て、人々の達している水準はそれぞれちがっている。

有能な教師とは、自分の受持っている生徒たちの心の状態と才能とを、少くともある程度まで見通すことのできる「識別の精神力（スピリット）」を具えた人である。有能な教師は外にあらわれたことを読みとって、自分が教えを授けている生徒たちの精神的霊的の態度に応ずる力がなくてはならない。偉大な教師であるイエス・キリストがこの「識別力」を完全に具えて居りたもうことは、サマリヤの女との会話の中によく説明されている。イエスはサマリヤの女の知りたいと思っていたことを説き明しておやりになったばかりでなく、その女の心の中を彼女の過去の行いによって読みとりたもうた。この賜物を、実際に必要な程度にすら具えている教師の数はきわめて少い。しかし教師たるものは、生徒の心にいつまでも消えない感動を与

えるため、どうして最もよく生徒に近づくことができるかをきめる責任を一人のこらずもっている。

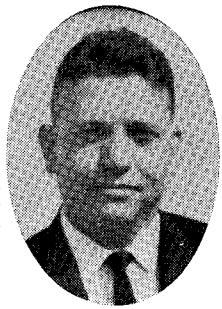
あなたたちの中には、神殿の中で学者の前に立っている少年キリストの光景を描いた絵を持っている方もあると思う。その画の中に、画家は肉体の力と、知性の火と、道徳的の美しさと、霊の熱とを兼ねあらわしている。この画の中にはすべての青少年に対する理想があらわれている。私の同僚である教師がたよ、絵筆と画布とを得てあの完全な少年の姿を複製しようと試みたまえ。何故にちゅうちょされるか。君には少しの手ぎわも少しの訓練もないと言われるのか。それでよろしい、さりながら、教えを授ける者は理想の少年の姿を画布の上にあらわそうと努める責任があるのみならず、生きている人から完全な人格をつくり出す責任を一人のこらずもっている。

「もし人が大理石を刻んで何ものかを作ろうとも、それはほろびてしまう。青銅の板に何かを書きつけても時と共にうすれて読めなくなる。しかし、もし人が不滅の精神に、神をおそれる正しいおそれと、同胞を愛する愛と、原理原則とをしみこませるなら、人は永遠に輝やきを失わないものを精神の板に刻みつけるのである」。

しかしながら、教師の責任は真理を積極的に教えることを以て終るものではない。教師は「なすべきこと」の領域はもちろん「なすべからざること」の領域にも責任がある。人の心の庭の中には、人の努力という分野に於けると同様、美しい花や役に立つ草木もあるが同時にいばらやあざみも生えている。青少年の心の中にある真理の花を寸々に破って、その代りに誤りの種を蒔く者こそ全く罪の宣告を受けるに値する者である。それであるから、教師が自分の教えていることを自覚していること、自分の教えていることが神と真理に一致していると心から誠実に信じていることが大切である。私は単に大切であると言っただけであるが、それはあなたたちがそれぞれ自分の家でひざまづいて真理を語る力を下さるよう神にねがうことができるからである。

今日賢明な両親や主な教育者たちは、人格をつくり上げることによってのみ善良な市民をつくることができることを実感している。誠実な教師である人々はみな、真の人格をつくり上げるのに役立つ美徳を教え込む機会こそ、自分たちに与えられた機会であることを実感している。正しい生活を送ること、倫理道徳の高い標準に一致すること、これらはあらゆる教師が一人のこらず守るべき義務でありまた責任である。然るに、これよりもっと大きな義務、もっと大きな責任さえ宗教の教師たちはもっている。宗教に言ってあることを教える教師は、普通の学校の教師よりも高い地位に在る。それは、倫理道徳の教えが実際に役立つことを信じている上に、宗教の教師たちは青少年を宗教の領域に導き入れる責任を負っているからである。この教師たちの義務は、神を見ることができるよう盲目の人たちの目を開けてやることである。「木々に舌があり、流れに書物があり、岩に説教があり、あらゆる物の中に善き事がある」のを見出すことはすばらしい（シェークスピーヤ「御意のまま」の第二幕より）。飢え渇いている孤独の人を、現世の肉欲的な物質の迷路から、宗教という永遠の国へつれて行くことはまことにすばらしい業蹟である。

青少年を導いて神を知らせること、神の律法を信じさせること、神が真に人類の父であることを確信させること、父なる神の愛の中に慰めと心の平和とを見出させると、――以上は真の教師に提供されている最大の特権であり、最も崇高な機会である。以上は教師たる者が一人のこらずもたねばならぬ責任であるが、宗教の教師たる者はこれ以上の責任さえもたなければならない。すなわち自分の受持つ生徒を導いて倫理道徳の高所へ至らしめるのみでなく、更に宗教的事実の高所、すなわち人の霊が「神の聖きみたま」の光に照らされて霊感を受ける所へ至らしめることこそ、またあらゆる青少年が「神の聖きみたま」に照らされて、故ロバート・ミリカンが言ったこの世で最も大切なこと、すなわち「道徳的宗教的価値の真実性を認識すること」が彼の言葉通り真実最も大切なことであるのを悟らしめることこそ、宗教の教師に与えられた機会であり特権である。



伝道部長メッセージ

この度、六月の二十六日から七月の五日までにわたって、ソルトレーク市にある当教会の本部で全世界の伝道部の伝道部長夫妻を集めて研究会が開かれました。これは当教会の歴史上始めて開かれた全世界伝道部の伝道部長研究会であります。アンドラス姉妹と私とは幸いにこの歴史的の研究会へ出席する機会を得、非常に多くの教えと霊感とを受けて限りなく喜んでおります。

大管長会の方々は、病気であったJ・リューベン・クラーク・ジュニヤ副管長を除き全員出席されました。まずマッケイ大管長が研究会開会の辞を述べられ、つずいてヘンリー・D・モイル副管長の話があり、モイル副管長はさらにクラーク副管長からの手紙を読まれました。これにつずき、最近教会の副管長に任命されたヒュー・B・ブラウン長老も開会の言葉を述べられました。この会が進行するにつれて教会幹部の大多数が参加され、また幹部の方々の多くはどの会にも出席しておられました。私は、このような高い位置を占めておいでになる偉い方々が、皆の者に対して本当に親しさと温かさとを現わしておられるのを見て信仰が強くなりました。この会には何もけばけばしい儀式張ったところはなく、ただ四角ばらないふんい気と善意とがあるだけでした。まことに私たちの教会は神のまことの教会であって、この教会を指導する予言者である十二使徒の方々は世界で最も偉い方々であります。

この研究会の間に採用された最も重要な新事実と言えば、全世界の伝道部ステーキ部がのこらず一様に使用する「新しい教授計画」でありました。この「新しい教授計画」は、全くさきの教授計画を教会が過去八年間にわたり実施した結果でき上ったものであります。この「新しい教授計画」のレッスンは、新しい改宗者を教会へ加入させる上に非常に有効であることがすでに実証されている一層直接且

ポール・C・アンドラス

つ強力な教え方ができるように、改正されまた簡単化されております。

この「新しい教授計画」では「当教会についてもっと知りたいと思っている人々のグループ」に教えることが非常に強調してあります。これは私たちの教会についてもっと知りたいと思っているか思っていないかわからない一人の求道者に向って教えを説くかわりに、私たちの教会についてもっと知りたいと思っている六人、十人ないし十五人の人々に向って同時に教えを説くという考えであります。このような集りの取りきめをする前に、宣教師と会員とは協力をして人々に向い、第一「モルモン教会について何か知っていらっしゃいますか」ときき、その答えが何であっても、第二「もっと知りたいと思いませんか」と言う二つの質問をして、この教会に興味をもっている人ともっていない人とをふるいわける必要があります。以上の質問は誰も当惑することなく、たずねもしたずねられもすることができ、もしたずねられた人がもっと知りたいと答えるときには、この人を研究グループに入ってもらうよう取りきめをするはずであります。もしモルモン教会には興味がないという返事であったときには「では、いつか興味がおありになるでしょう」とだけ品よく答えて話しを片づけるのであります。このようにして、もっと知りたいと思っている人々がそろって宣教師から教えを受けるのであります。私は、この一様な「新しい教授計画」はこの伝道部に於ても世界のどこに於ても非常に立派な効果をあげると確信しております。

この研究会に於けるもう一つの主な出来事は、世界中の伝道部をそれぞれ一人の監督をもった十の区域に分けて組織するという発表でありました。そこで、北部極東伝道部と南部極東伝道部とハワイ伝道部とは「ハワイ—極東区域」という一つの区域におさめられました。そして、十二使徒会補助のゴルドン・B・ヒンクレー兄弟がこの「ハワイ—極東区域」を管理する任命を受けました。この十の区域を管理する監督の方々はすべて教会の幹部の中から選ばれております。この組織が作られましたによって全世界の伝道部の仕事に有益な効果がもたらされる見込みであります。

またこの研究会の間に教会の運営があらゆる角度から考察されまた実際に則して説明されました。教会のプログラムを適切に組織して実行するとき、その数あるプログラムが本当にすばらしいものであることを一見して胸のおどる

思いでした。私たちは、たくさんの覚え書きとたくさんの印刷した資料を持ち帰りました。これらの中にある新しい考えと指示とは、これからこの伝道部でいろいろの活動となって実行されますが、私は当教会のあらゆる組織に於て立派な進歩が見られることをこぞって期待することができると信じます。

ソルトレーク市を離れる前、私はヒンクレー兄弟と建築委員会の方々に会って当伝道部の建築計画をもう一度吟味する機会がありました。このとき私は、大管長会が当伝道部のために「勤労奉仕宣教師建築計画」に承認を与えられたことを知って喜ばしく思いました。当伝道部の方々も皆このことを知ってうれしくお思いになるにちがいないと信じます。教会の建築委員長であるウェンデル・メンデンホール兄弟によると、この計画の監督者たちが今選定を受けて居ますから、この計画を着手するため間もなく日本に着くことでありましょう。この計画に従って建てらる建物の総数はまだきまって居りませんが、この計画が一旦実行されますと、各支部にみな新しい建物が建てられるでありましょう。現在当伝道部にはみなで三十二の支部があります。私たちは近々この建築計画についてもっと新しい知らせを受けることを望んでおります。

このとても大きな研究会が開かれたことは、全世界を通じてわが教会がほとんど信ぜられないくらいの大きな進歩をする新しい時代を先ぶれするものであります。マッケイ大管長は間もなく一年間に百万人の改宗者を得ることを期待して居られるそうであります。先に申した「新しい教授計画」によって、またそれを実行するに当って全会員が宣教師たちと密接な協力をすることによって、百万人以上の改宗者が毎年教会に入ってくる時はこのさき何年も待たないで実現するでしょう。私たちは今いそぎの時代に住んでいますから、これらの大きな出来事も私たちの時代に起ろうとしています。あなたも私も、この大きな出来事を親しくこの目で見ることになるのです。日本人も韓国人も沖縄の人も何千人何万人というのでなく何十万、何百万という数で教会に入ってくる時が間もなく来るにちがいないことを私は信じております。兄弟姉妹たちよ、私たちはこれらの大きな出来事に参加する機会を今もっています。あなたはどの程度まで、またどれほどよく現在これに参加していますか。

「啓示はつずく」（二十八）

佐藤龍猪

「それ故に汝らはわが一度言葉を宣べ伝えたるにより、二度と宣べ伝うることを得ずと思うべからず」

ニーファイ第二書二十九〇九

一、啓示はつずく。「啓示という言葉は天からの交通によって神の真理を知らせるという意味をもっている」（「信仰箇条の研究」三九三頁参照）。神は霊能をもった人に親しくその姿を現わし、また神の言葉を聞く耳をもった人にその言葉を伝えたもう。また神の御許から天使を遣わし、示現や霊夢を与え、「ウリムとトミム」によって真理を明らかにしたもう。このように、神によって定められたいろいろな道を通じて啓示が人間に与えられる。

神の目には今も昔も同じように一人の人といえども貴重である（「教義と聖約」十八〇十五・十六参照）。従って、われわれは人を救いに導びくために、神が今も昔も同じように御言葉を与えようとしておりたもうことを信ずる（マッコンキー長老著「モルモンの教義」五七九頁、「救いの教義」第一巻二七四頁参照）。われわれは、聖書に神の啓示がことごとくのっているとは信じない（ニーファイ第二書二十九〇十参照）。救い主イエス・キリストはこの世に居て導きと恵みを施したもうたとき、人類の救いの根本となる永遠の法則の上にその教会を樹てたもうた。しかし、古代の使徒たちが此世を去ると、この永遠の法則に異教の思想が入りこんできた。そして福音の肝心な儀式は神の示しでなく人の意志によって変更され、イザヤが言った「この民は口を以てわたしに近づき、くちびるを以てわたしを敬まうけれども、その心は私から遠くはなれ、彼らの私をかしこみおそれるのは、そらで覚えた人の戒めによるのである」（イザヤ書二十九〇三）という有様になった。純粋なままの永遠の法則の上に樹てられた教会がこのように腐敗堕落しすっかり変ってしまったので、天が開けて神の使者が遣わされ、原始教会にあった純粋な信仰と神の権能とを「回復」することが必要になった。（「聖徒の道」一九六一年五月号参照）。

使徒の時代には神の啓示が豊かにあったが、その時代が過ぎると世の人々は「主のみたま」を否定するようになったので、神の導きが人々に与えられなくなってしまった。その結果、主はもはや人間とは交通なさらない、人間の救いと導きに必要な教えはことごとく聖書の中に誌してある、という信仰を生ずるに至った。

ジョセフ・スミスが示現を受けたと宣言した時の世の中の状態は正にこのようなものであった。少年ジョセフ・スミスは「天使が現われるというようなことはない。神の啓示があるはずがない。聖書はすでに完成している」と聞かされていた。しかし、主なる神はジョセフ・スミスに示現を与えて完全なままの福音を知らせ「神は人々に真に霊感を与えて古えの代と同じく今の代にも神の聖き業に人々を召すことを証」し

たもうた（「教義と聖約」二十〇十一参照）。ジョセフ・スミスに啓示が下らなかったなら、真の神の存在も解らなかったであろう。救いの計画も解らなかったであろう。また、天に於ても地に於ても結び固める権能を以て「救いの儀式」を執り行う神権者もなかったであろう。

「ごらん、主の御業は本当に偉大で驚嘆すべき事である。また主の奥義が何と深くて、隅々まで知ろうとしてもむつかしいことよ。それであるから、主のなしたもうことを一切知るのはとても人間わざでできることではない。主の道が啓示されなかったらこれを知る者は一人もない。それであるから兄弟たちよ、神の下さる啓示を軽んじてはならない」（モルモン経、ヤコブ書四〇八参照）。

二、啓示のつずくことは予言されていた。

主なる神が現代に於て、自らの声を以てまたは天使の声を以て人間に語りかけたもうことがあるのは何も不思議ではない。主なる神は、今も昔と同じように人類の救いを深く心にかけておいでになるからである。人類はいくら発達しても常に神の助けを必要とする。ある古代の予言者は「示現がなければ民は亡びる」（しんげん二十九〇十八参照）と言った。また別の予言者は「まことに主なる神は、そのしもべである予言者にそのかくれた事を示さないでは、何事もなさらない」（アモス三〇七）と言い、さらに別の一人は「あなたがたの老人たちは霊夢を見、あなたがたの若者たちは示現を見る」（ヨエル二〇二十八）と言っている。

また古代ニーファイ人の予言者は「天使たちはもはや世の人に現われないということが言えるか。神はすでに聖霊の力を人々に与えることを止めたもうたと言えるか。時が存在するかぎり、大地があるかぎり、また救うべき人が一人でも地上にのこっているかぎり、神は聖霊の力を与えることを止めたもうであろうか」と言っている（モロナイ書七〇三十六―三十七参照）。

信仰の篤いクリスチャンの人々の多くは、アダムから使徒の時代に至るまで代々神から啓示が与えられたことを信じてはいるが、使徒の時代が過ぎてからは「天が封じられ、啓示が止んだ」と信じている。しかしながら末日聖徒は古代の予言者が宣べ伝えた通り、主なる神は今もこれからも真理を人類にあらわしたもうにちがいないと信ずるものである。

「われらは、すべて神のこれまでに啓示したまいしこと、すべて今啓示したもうことを信じ、なお今より後、神の王国につきて多くの偉大にして重要なることを啓示したもうことを信ず」（末日聖徒イエス・キリスト教会、信仰箇条第九条）。

「聖経として聖書はすでに完成されている。将来に対する神の導きがどんなに必要であっても、神はもはや人類に与えるべき勧告をみな言っておしまいになった。それであるから人類は聖書にあらわれている古代にたまわった神の言葉にたよるほかはない」という考えが人の心に入り込んだことは、聖書に書いてあることを考え合わすと不思議に思える。常識から考えても「聖書は完成されている。聖書のほかに神の言葉はない」という信念が正しいという根拠はどこにも見当らない。このような考えは全能の神の口をふさぐ企てであり、神は語る力がないと宣言するにひとしい。従って、啓示がつずいて与えられる必要がないということは矛盾なしに言えるはずがない。また、主なる神はパレスチナの地以外に住む

人間には、御言葉を賜わって導きをお与えになるほどの関心をもっておいでにならないということも、これと同様矛盾した言葉である(「救いの教義」第一巻、三七頁参照)。

キリスト降誕以前に生きていたアルマ(ニーファイ人の予言者)は「ごらん、主はどこの国でもその国の人またはその国の言葉に通じている人に、知恵に於て違っていないかぎり、すなわち自分のみこころにかなう程度に於て神の道をその国民に宣べ伝えさせたもう、それであるから、主が正義と真理にたがわず賢く万事を取り計らいたもうことが明らかである」(アルマ書二十九〇八)と言っている。

三、キリストの証しをする二つの国民。

モルモン経の予言者ニーファイは「国民は一つより多くあるを知らずや。汝らの神にして主なるわれが万人を造りしを知らずや。またわれが海の島々に住む者のことを忘れざるを知らずや。またわれが上は天に於て支配し、下は地に於て支配し、わが言葉を世界万国の人々に示すことを知らざるか

「それ故に、わが言葉が更に多く与えらるればと言いて不平を言うは何ごとなりや。二つの国の人が証拠を示すは、われが神なることと、われが一つの国の人を今一つの国の人と同じに思うことを汝らに証明するなり。汝らはこれを知らざるか。われはこの国民に語ると同じ言葉をかの国民にも語る。故にこの二つの国民一つに合わさるときには二つの国民の証拠もまた一つに合わさるべし」と誌している(ニーファイ第二書二十九〇七—八参照)。

これは予言者によって現代の異教徒たちに語られた言葉であった。イスラエルには、もしも正直な人であるなら、その「二人の人の証詞は真実である」という証詞の法則があった(ヨハネ伝八〇十七参照)。主なる神はこの法則を人でなくて国民に適用なさっているのである。もしも「主の言葉」が選ばれた二つの国民の証詞によって確かになるならば、イエスの証人になる二つの国民は何れであるか。このような国民の一つはパレスチナに於けるイスラエルであり、今一つはアメリカの地に於けるイスラエルである。すなわちユダは旧世界より語り(聖書を指す)、ヨセフは新世界より語る(モルモン経を指す)。そして、今日これら二つの国民の語る証拠は一つに合わさっている(「救いの教義」第一巻二七八頁参照)。

四、末日の聖典(モルモン経、教義と聖約)は聖書の真意を明らかにする。

聖書の中にはっきりと述べてある「人間の救い」に関する諸原則について多くの人がつまずいている。また誰でも皆聖書の中にはっきりと述べてあると言っている諸原則について全く違った解釈が行われている。「死者の復活」について知りたければ、また「日の栄の国」に救われるのは誰か知りたければ「モルモン経」と「教義と聖約」を読まれたい。「教義と聖約」の第七十六章には「救い」について最も明瞭に述べてある。

世の人々が死後どこへ行くかという疑問は聖書によって解明することができるか。然り、人が正しい霊感を得て聖書を読むならそれを発見するにちがいない。しかし、主なる神の啓示によって更にくわしい知識を与えられている末日聖徒はこの問題について少しもつまずくことはない。末日聖徒はバプテスマの問題についてつまずくことなく、バプテスマを執り行う正しい様式を啓示によって与えられている。また神に関

する正しい知識を啓示によって与えられている。もしも人々が正しい信仰のもつ霊感を得て聖書を読むならばこれらの知識を見出すはずである。然るに世の人々は、主なる神があらゆる永遠の真理を明らかに現わす啓示を現代に於てたまわったことを信じないでつまずいている（「救いの教義」第一巻二七九頁参照）。

五、啓示のつずくことに反対する考え。

啓示のつずくことに反対する人々はヨハネ黙示録にある「この書の予言を聞くすべての人々に対して私は警告する。もしこれに書き加える者があれば、神はその人にこの書に書かれてある災害を加えられる。またもしこの予言の書の言葉をとり除く者があれば神はその人の受くべき分を、この書に書かれているいのちの木と聖なる都からとり除かれる」（黙示録二十八〇十八・十九参照）という聖句をよく引用する。ヨハネは今われわれが持っているような聖書の結びの書として黙示録を書いたのではない。ヨハネの言っている言葉の真意は、啓示によって彼に与えられた故に神聖なものである「この書すなわちヨハネ黙示録」の言葉を削ったり増したりして彼の記録を変えるなら、それはすなわち神の言葉を変えることであるから罰を免かれない、というのである（「信仰箇条の研究」四〇四—四〇五頁参照）。

モーセは、神の命令を伝える言葉につけ加えてはならない、また減らしてはならないという指図を、ヨハネが黙示録をあらわした時より十五世紀も前に出している。モーセはその時明らかに「わたしがあなたに命じる言葉——わたしが命じるこのすべての事」と言っている（申命記四〇二、十二〇三十二参照）。モーセ自身の命じる言葉が「あなたがたの神、主の命令」（同上四〇二参照）であったことは言うまでもない。

またテモテ後書の「聖書は、すべて神の霊感を受けて書かれたものであって、人を教え、戒しめ、正しくし、義に導くのに有益である。それによって、神の人が、あらゆる良いわざに対して十分な準備ができて、完全にととのえられた者になるのである」（テモテ後三〇十六・十七）、および使徒行伝にある「またあなたがたの益になることは、公衆の前でも、また家々でも、すべてあますところなく話して聞かせ、また教え……神のみ旨を皆あますところなく、あなたがたに伝えておいたからである」（使徒行伝二十〇二十—二十七参照）という言葉を引いて、テモテに知らされた言葉が「救いに至る知恵」を与える十分満足なものであり、また神の人が「あらゆる良いわざに対して十分な準備ができて、完全にととのえられた者になる」のであるならば、この聖句は全人類にとって時の終りまで十分である、またエペソの長老たちに宣べ伝えられた教義が「神のみ旨を皆あますところなく」あらわすなら、これ以上の勧告は期待すべきでないと主張されている。

これがもしも少しも矛盾のない主張であるとするならば、パウロがこの指図を出した後に使徒たちが与えた啓示はすべて捨てなければならないであろう。

またキリストが死の際に「すべてが終った」（ヨハネ伝十九〇卅）とお言いになったのは「啓示が終った」ことであると主張する人々がある。しかし、イエスはその後復活をして弟子たちに現われ「見よ、わたしの父が約束されたものを、あなたがたに贈る」（ルカ伝二十四〇四十九）と仰せになり、また「見よ、わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである」（マタイ二十八〇二十）と仰せになった。「すべてが終った」という御言葉が、これを主張する人々の言う通りの意味であるなら、生涯啓示による導きを受けて教えを授けた使徒たちの行動は何と見たら

よいであろう（「信仰箇条の研究」四〇六頁参照）。

またゼカリヤが言った「万軍の主は言われる。その日には、わたしは地から偶像の名を取り除き、重ねて人に覚えられることのないようにする。わたしはまた予言者および汚れの霊を地から去らせる。もし、人が今後予言するならば、その産みの父母はこれにむかって「あなたは主の名をもって偽りを語るゆえ、生きていることができない」と言い、その産みの父母は彼が予言しているとき彼を刺すであろう。その日には、予言者たちは皆予言する時その幻を恥じる」（ゼカリヤ十三〇二—四）という言葉が引用されるが、現在なお偶像や汚れた霊が地上に勢力をもっている今日、この予言に言われている「その日」はなお未来のことである。またここに言ってある「予言者」とは偶像や汚れた霊と相並んで「偽予言者」であることが明らかである（「信仰箇条の研究」四〇四—四〇七頁参照）。

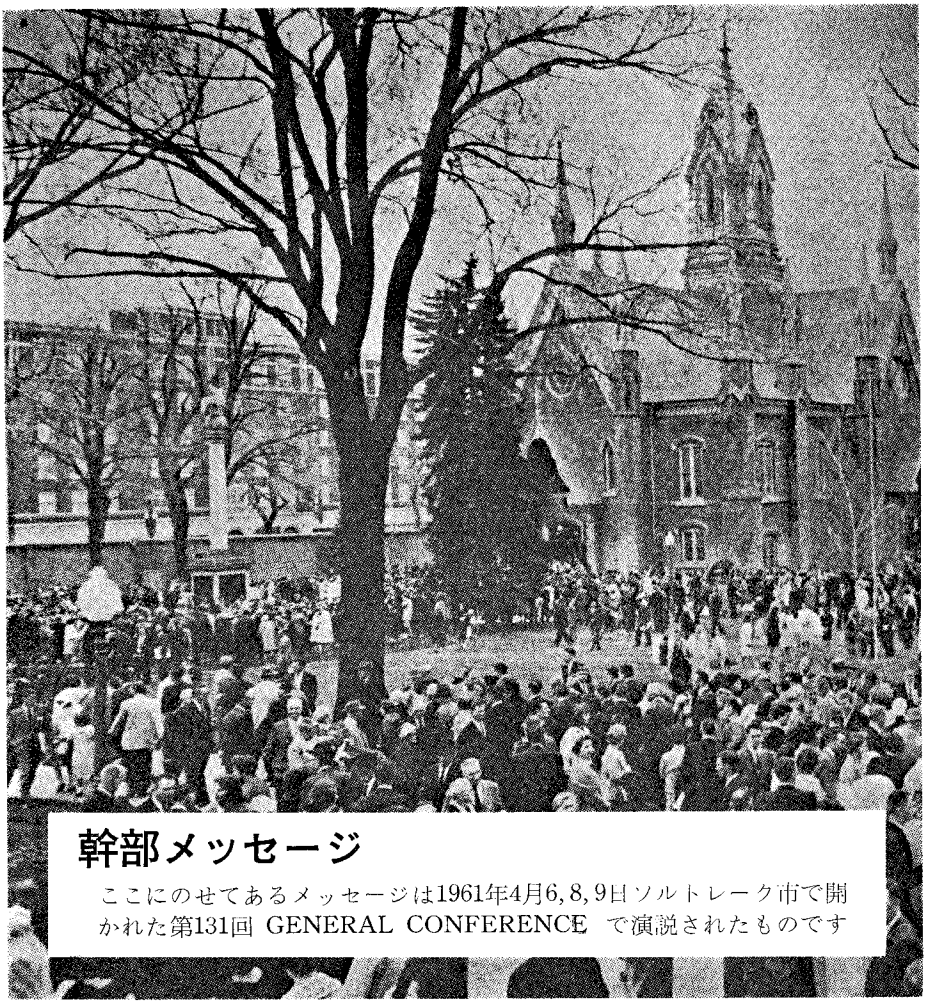
六、今日教会の中にある啓示。

末日聖徒イエス・キリスト教会は啓示の上に樹てられた教会である。イエス・キリストはペテロの証詞を称えて「あなたにこのことをあらわしたのは、血肉ではなく、天にいますわたしの父である」、「わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てよう」（マタイ伝十六〇十七—十八参照）とお言いになった。予言者ジョセフ・スミスはこれに注釈を施して「如何なる岩の上にか？啓示の上に」と言っている（「ジョセフ・スミスの教え」二七四頁参照）。

しかし、主の家は秩序の家であって混乱の家ではないから（「教義と聖約」百三十二〇八参照）。教会に関する啓示は、神の誡命と啓示を受ける任命を受けた者だけを通じて下さる。これはすなわち教会の大管長ただ一人であって、大管長はすべて権能の鍵を保有し教会に啓示を宣言する者である。「誠にまことにわれ汝に告ぐ。わが僕ジョセフ・スミス（二代目）のほか、何人たりともこの教会に於てわが誡命と啓示とを受くるために任命せらるることなし。それは彼は正にモーセの如くわれより啓示と誡命とを受くる者なればなり」（「教義と聖約」二十八〇二—八、二十五〇九、九十〇十四九十四〇三、百〇十一、百七〇九十一、九十二参照）。すなわち教会の大管長は「予言者、聖見者、啓示を受くる者」であるが、大管長死亡するときは、大管長会（大管長第一副管長、第二副管長より成る）は解体してその権能「十二使徒評議員会」に移る。而して「十二使徒評議員会」は教会の管理定員会となり、必要があれば「十二使徒評議員会」を通じて啓示が下る。すなわち、主なる神がその民に啓示もしくは誡命を下したもうときには必らず教会の管理職員を通じて下さるのである（「教義と聖約」四十三〇一—十、「ジョセフ・スミスの教え」百十一頁参照）。

予言者ジョセフ・スミス以来、わが教会の大管長には代々啓示が下っている（「救いの教義」第一巻二八〇頁参照）。中でもブリガム・ヤング大管長に下った啓示（「教義と聖約」第百三十六章参照）、ウィルフォード・ウッドラフ大管長に下った啓示（「教義と聖約」四百五十頁参照）およびジョセフ・フィールディング・スミス大管長に下った啓示（「福音の教義」第七版四七四—四七五頁、「聖徒の道」千九百六十年二月、四十二頁参照）等は世の中に公けにされている。

忠実な教会員に対し個人の導きとして啓示を与えられることがあるが、その人はこれを個人に対する導きとして胸にしまって置き、教会の集り等に於て公開すべきではない（「救いの教義」第一巻二八八頁参照）。

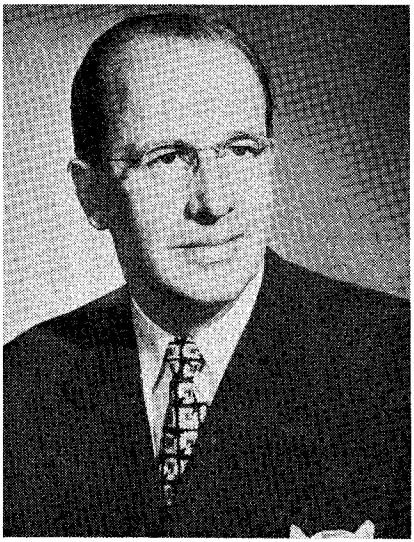


幹部メッセージ

ここにのせてあるメッセージは1961年4月6, 8, 9日ソルトレーク市で開かれた第131回 GENERAL CONFERENCE で演説されたものです

全世界へのメッセージ　　十二使徒会々員　エズラ・タフト・ベンソン

目をあげて見よ　　十二使徒会補助　スターリング・W・シル



全世界へのメッセージ

十二使徒会々員
エズラ・タフト・ベンソン

誰かが次のような新しい福言があるといいました。

〝幸福なるかな　何も欲せざる者、
その人は失望することなければなり〟

兄弟姉妹の皆さん、私は今朝、心からへりくだって皆さまの前に立ち、この大会に出席できました機会と祝福を喜び感謝いたしております。私は今まで語られた人々の助言を全心をもって裏書きし、これらのすでにのべられた証に私の証を追加いたします。

多分エドガ・A・グウエストであったと思いますが彼は次のようにいいました。

〝ある者は金のために故郷を去り、
またある者は名誉のために家を出る
ある者は常に空の太陽を求め
またある者は恥さらしに出かける
いかなる理由で人が西に東に旅するか
又その時期或は季節がどうあろうと
私の知ったところでない
私にとって故郷は最上の地である〟

愛する兄弟姉妹の皆さん、私は今日、この教会のふところに戻って皆さんと共におり、この午後の大会が終っても、その後引続いてここにふみ留まれることを自覚してほんとに幸福であります。

数日前私が八年間の住家であるワシントンから西方に向けてドライブして来る時、多くの古い、よく親しんだモルモンの讃美歌〝高き山よ〟〝美し我がシオン〟などが私の口から響き渡りました。私

の心は喜びにみたされ、大きな自由を感じ、八年間政府の運転手の後に乗廻した後、今、自分で運転して走ることができ何となくゆったりした気持になれたのであります。

故郷に戻るのはよい気持です。この数日間何百人の人が私に向って〝ベンソン兄弟、再び故郷にお迎えできてほんとに嬉しいですよ〟と親しい言葉で繰返し呼びかけてくださいました。私はその皆さんに倍して故郷に戻れたことを喜んでおるのであります。兄弟姉妹の皆さん、今ここで私たちが教会の中で持っています兄弟愛の暖い友情で迎えられますことは大きな喜びであります。私はそれが真実なものであることを知っておりますが私たちがイエス・キリストの福音に、もっと完全に生活し、私たちの信仰を増大して行くなら、それ以上のものとなることを知っております。けれどもそれは、ほんとに甘いふんいきであります。

私は再び戻って教会幹部の兄弟たちと交わる特権を感謝して居ります。この人の世に、この教会の幹部の交友ほど甘いものはありません。私は過去八年間、四十二ヵ国、六百万哩の旅をして来た後に、こういうのであります。そして私は私が神の王国、教会の一部分である幹部会でこの兄弟愛、友情、精神の一部を占めていることを深く感謝するものであります。

私は今朝、私のここ数年間の活動に対ししめしてくださった皆さんの関心、又私の小さな努力に対してあたえてくださった支援に対し感謝の意を表したいと思います。多難な八年間ではありましたが、それだけ報いのあった年であると申さねばなりません。この間私は私が教会または私たちの偉大な国家を傷つけるような行動をとることがないように常に祈りました。

私は久しく教会幹部の兄弟たちと交わることができませんでした。顧みますに一週間のうちで私の最も幸福な時は日曜日に私が、ソルトレーク神殿の階上で行われた大管長会及び十二使徒会の週間会議の報告を読む時でありました。私はこの特権を私にあたえてくださったマッケイ大管長に感謝いたします。

私は毎週の教会のステーキ部および伝道部の巡廻説教をすることはできませんでしたが、その代り全世界の聖徒たちと会う栄えある特権を持つことができました。私はこの期間中、主の欲し給うところへ導かれたことを確信しております。私は常に主の欲し給うところにおることを望みかつ祈っております。私は一九五二年十一月にマッケイ大管長が〝私は決心しています。もしあなたに適正に機会が到来したら、あなたはそれを受諾すべきです〟と言って私に政府の要所を占める要請があることを覚らせられた時から、私は疑いもなくこのように信じております。

機会は適正に訪れ、そして私はそれを受諾したのでありました。私たちはアメリカの市民として合衆国大統領の召しに応ずる責任があります。私がまだステーキ部長でありました時、フランクリン・ルーズベルトからのそのような召しに応じて、一九四〇年代に何年か、国家農業顧問団四人委員会に奉仕したことがあります。

けれども私が今朝、最も感謝いたしますことは、過去八年間に私のために祈ってくださった信仰と祈りに対してであります。先づ第一に教会幹部の兄弟たちによる祈りに対し、又私自身の定員会の会員たちに対し、その他会員の皆様に、また忠実な私の家族、また常に私を援けてくれ、特に、わずかしか起りませんでしたが、緊急重大な場合に私の支えとなってくれました妻に対し、深く感謝いたす

しだいであります。私は全教会の末日聖徒たちの信仰と祈りに対し、また全世界の自由諸国の民の信仰と祈りに厚く感謝するものであります。数百、数千の手紙や電報や電話によって、私のためにいかに多くの祈りと心ずくしがなされたかがはっきりとしめされました。もしこの祈りと援けがなかったら私は自分がなし遂げた万分の一もなし得なかったであろうことをはっきりと知っております。

誠にそれは政治的に鋭敏な地位でありました。そこにはまじめな意見の相違というものがあります。私たちは何の恐れることもなく人々がまじめに意見を相違することのできる国に住んでいることを神に感謝します。私はある相違は政治的な立場から生じていることを知っていますが、全体的に見て彼らは、まじめな意見の相違であります。

そこにはまた批判もありましたが、私は卒直にいって少くとも私は正しいと思うことを行いました手紙その他の証明によって、それがアメリカ国民の大部分の意見を代表するものであることを確信していましたので、それらの批難はたいして私の障害とはなりませんでした。そして私は心の内に民に対する愛の外、何物をも持っておりませんでした。私は決して憎悪感をいだいたことがなく現在も憎しみを持っておりません。私をよく援助してくれた新聞記者の代表者たちがよく〝貴方はきっと貴方を批判しまた批難する民を憎むでしょう〟と言われましたが、私はいつも〝私はいかなる人をも憎みません。私は私たち天父のすべての子供たちを愛します、ある人たちを他の者より、もっと愛することは、ほんとうであります〟と答えました。

けれども兄弟姉妹の皆さん、私はたしかに心の内に憎しみと言う感情を持っておりません、それは私自身また家族と共に、そのような憎悪感を取除くようお祈りしたからであります。そして私はそのような心を持っていないことを深く感謝しております。私は私たち天父の子供たちを愛します。私が見ますのに彼らの大部分は善良であります。彼らは私たち皆と同様に弱点を持っております。けれども私は四十二カ国を訪問して見て、彼らが殆ど同じであることを発見しました。ある者たちは悪い指導者を持ちまたある者は生命よりも尊い自由、投票数を失っていることはたしかでありますが、全般的に見て彼らは皆善良な民であります。

私は彼らが五つの共通した希望を持っていると思います。私は彼らが善く平和を望んでいることを発見し、もしもこの世界のまたは国家の指導者たちが、この人々の心に応えるなら、彼らは喜んで働らくであろうと信じます。

二番目に彼らはおたがいに隣人、兄弟または友人として仲よく生活したいと望んでおります。三番目に彼らはその家庭または家族を愛し、善良な両親になろうとしております。四番目に彼らは生活水準を上げようと欲しています。彼らはその教養を高め進歩するためにある種の人生の慰安または機会を楽しむことを望んでおります。

五番目に彼らは善を行うことを希望しております。

これらの人の大部分が農村地帯に育った人たちでありますが、村落に住む人が世界人口の半数以上を占めていることを念頭におかねばなりません。彼らはその足を大地につけ、土地と親しみながら働らき生活している堅実な容易にくじけない人たちであり恐らく他のいかなる部門の人よりも〝汝らその播くところを穫るべし〟と言うことを理解している人たちであります。

私は共に働いた人たちに感謝しております。そして私は広く世界の農村の人たちと接触できましたことを感謝しております。私はこれらの素晴らしい人々から受けた支持を感謝しまた農務省で共に働らいた一団の人々の忠実さと献身的な奉仕に厚く感謝いたしておる次第であります。私はこの八年間に大統領から受けた支持に対し、彼が正しいと信じたことをなす深い思慮と決断、そして同様に私が正しいことをなすのを認めてくれたことに対し深く感謝いたすしだいであります。そして私は私が信じないような政策に協力を求められないという約束を守ってくれたことに感謝しております。彼は私がいかなる場合でもそのようなことをなさないであろうことを知っていたからであります。

私は私たち天父の子供たちを愛するといいました。この八年間に私は数百数千の人々と接触いたしました。昨夜の神権会で私たちは、〝福音を分ち合う〟大計画および照会プログラムについて聞きました。私は公務上の接触による約九千名の氏名を持っております。私は彼らに照会カードを送りたいと思います。私は彼らすべてが福音を聞くことを望んでおります。私は私たち天父の子供たちが皆、イエス・キリストの福音を受け入れ、これによって生活することにより、その祝福を受け入れるように希望しております。

私はロシヤにいた時でさえ、その主人公であるロシヤの指導者たちに、私のこの政府の務めが終ったら私は再びこのロシヤに戻って来てすばらしいロシヤの人々と私の人生哲学について、また精神的なことについて語り合いたいと私の希望を述べました。もちろん私は約束をあたえられませんでした。共産主義の指導者たちは、真理の光を恐れております。けれども兄弟姉妹の皆さん何時の日か、いかなる方法かによって、地上の全国民の扉が開かれ、彼らが回復された福音のメッセージを受け入れ、私たちがこの偉大な国で享受していると同様の体系の下に自由と祝福を楽しみ、選択の自由、私有財産の所有、自由貿易及隣人奉仕など多くの善い生活ができるようになるよう私は心から願い祈っているのであります。

私はこの偉大な私たちの国家を愛しております。そしてこの国に奉仕することができましたのは私にとって名誉であります。私はこの国の国民が予言された歴史を持っていることを知っております。私はこの国のすべての市民が祈りをもってモルモン経を読みこの国についてなされた予言並に約束とその条件のあるものを学び、私たちがアメリカの民として、この大いなる約束を充分に自覚して生活するよう、また私たちがこの国の憲法は、天の神がその目的のために起した人たちによって制定されたものであることを知るように神に祈るものであります。

この国の氏は完遂せねばならない大きな使命を持っております。ターナー兄弟が非常に美しく述べられましたように、この地に福音が回復できる場所が用意されたのであります。私は世界がいかなるものよりもイエス・キリストの福音を必要とし、世界の民が福音のあたえるものを欲していることを確信いたしておりますが彼らはそれを自覚していないのであります。彼らは福音が備えているところの錨を欲しているのであります。それは彼らが直面している問題に回答を与え、心の中の平和と完全感を彼らにもたらすものであります。兄弟姉妹の皆さん、福音こそ世界の問題に対する唯一の回答であります。私たちは平和を叫び平和会議を開くこともできるでしょう。けれども私はこれらの平和のために努める人々に、只次のこと

をおすすめしたいのです。平和は心の内からもたらされるものであります。それは決して外から無理に頼んだりおしつけたりするものではありません。それは平和の王の教と模範にしたがうことによってのみもたらされるものであります。

私は故郷にもどってほんとうに幸福であります。私は私たち天父の子供たちにこの光栄あるメッセージをもたらすために私が少しでもお手伝いができるように願いかつ祈っております。私は過去八年間の私の奉仕が偉大なる教会の伝道事業に何らかの貢献をなし得たであろうことを願いまた祈っております。私は私たちが全世界に行けるようまた最近私が再度広範囲に訪ねることのできたイスラエルに行けるように希望します。そこでは奇跡が行われ予言が成就されております。私は私たちが素晴らしいアラブ諸国に行けるように望みます。私は彼らがいかに歓迎の手を差伸べたか、その暖い友情を決して忘れることができないでありましょう。

私はエジプトの訪問、身にしみて感じる彼らの愛と友情を決して忘れないでしょう、彼らは私に最上の贈物として素晴らしいアラビヤの種馬を提供してくれました。私は私たちが福音をインドへ、かの国のけんそんな民にもたらすことができるようまたパキスタン、中国、ユーゴスラビヤ、ポーランド、ロシヤその他すべての地へたずさえて行くことができるようになりたいと思います。何となれば私たちのメッセージは世界へのメッセージだからであります。この教会は世界の機関であります。

百三十年前長老たちが、啓示を世に発表すべきかどうか決定すべく集会していた時、主は教会への啓示は同時にまた世界へ向けてのメッセージであると見なされたのであります。主はそれを誡命の書（今日の教義と聖約）の序文として示されましたが今日これは教義と聖約の第一章となって居ります。この中から私は次の聖句を引用致します（注意して書留めて下さい）

〝聴け、汝らわが教会の人々よ。いと高きところに住みて、すべての人を見まもる者の声は告ぐ。曰く誠にわれ告ぐ、汝ら民よ、遙かなる所より耳を傾けよ。海の島々にある者よ、共に聴け。誠に主の声はすべての人々に及ぶものなれば、一人ものがるる者なし、目として見ざるはなく、耳として聞かざるはなく、心として刺し貫かれざるはなし……

而して、この末の世にわが選びたる弟子たちの口よりすべての人々に警めの声は及ばん。この末の世の弟子たちは進み行けど、一人もこれを止むる者なからん。そは主なるわれ、彼らに命じたればなり。〟（教義と聖約一・一―二四―五）

この故に私たちのメッセージは全世界へのメッセージであります。それは私たち天父のすべての子供たちのためのものであります。天父なる神と御子イエス・キリストが少年予言者に現れ給うたのは、確かに私たち天父のすべての子供たちを祝福されようとして訪れたに相違ありません。

兄弟姉妹の皆さん、私は今日皆さんに福音が真実であること、そしてそれが純粋に完全な形を以て回復されたを証しいたします。モルモン教は完全なイエス・キリストの福音であります。この故にモルモン教は真理であります。神は私たちが福音に生きることを授け給います。私は神が再び天より語ったことを証いたします。天は封ぜられておりません。天父なる神と御子の少年予言者へ示現は実際に起ったことであります。神は生き給います。イエスはキリストで

あり、世の贖主であり、大部分のキリスト教者たちが主張しているような、たんなる道徳的な偉大な教師だけではなく人類の救主であり誠に神の子であります。

ジョセフ・スミスは生きた神の予言者であり曾て地上に住んで者の内で最大なる予言者であります。彼は神の御手にある道具で、主の再臨に備える末日の神権時代を導く最大なる者であります。

私はこれらのことが真実であり、私たちは今日、天父がその子供たちを祝福するための計画をすすめて行くに必要なすべての鍵と権能を持っている生きた神の予言者を教会の頭にいただいていることを証いたします。私は神の生き給うごとくこれらのことが真実であることを知っており主イエス・キリストの御名を通して、この証を皆様に申上げました。アーメン。

目をあげて見よ

十二使徒会補助
スターリング・W・シル

私はこの半年毎に開かれる教会の大会に兄弟姉妹の皆さんと共に出席できましたことを心から感謝しております。ここに来て私たちの信仰を強め私たちの思いを再び、この最も偉大な末日の神権時代に回復された教会の目的に向けますことは、何と大きな特権でありましょう。

主は先づ第一に私たちを富ませ安楽にさせるために、この盆地に伴ったのではありません。主は恐らく私たちを経済的に秀れ又政治的な能力を持つようにするつもりではなかったでしょう。私たちは神の王国を建て、回復のメッセージを万国の民に告げ、世界をしてキリストの再臨に備えさせるために遣わされるべく、ここに伴われたのであります。この分野において私たちは優秀でなければならないのであります。

救いのメッセージを読む時、いかに大きな責任が私たちに課せられていることでしょう。

けれども私たちが真理として自身の証を持っている偉大な三つの新しい聖文を授けられている以上、私たちが信仰において、教育において、永遠の生命を準備することまたそのほまれにおいて優秀でなかったら、何と申しわけが立つでしょうか。これを完遂するための動力と霊感を得るように私たちを援けるのがこの半年毎に開かれる大会の目的の一つであります。

いつも大会の行事の一部として、大管長会、およびその他の教会幹部たちは神殿の階上で、霊感された集会を持ちます。この大会で私はこの歴史的な場所に坐して、私たちの救われるためにかくも必要な聖なる儀式の執行されるこのブロックに建っている壮厳な神殿を貧困の真中にあって建設した私たちの先祖開拓者たちのことを思いました。けれども神殿そのものは絶えず私たちに私たちの義務を思い出させるのであります。それは私たちの使命の象徴のようなものであります。

皆さんはきっと夜に輝いた神殿の尖端が、あたかも私たちに人生の目的を思い出させるかのように高く天を指し示しているのを見て胸の高鳴るのを覚えたことでしょう。私にとって教会の建物の内で最も霊感される部分は尖塔であります。スパイヤ（塔）とインスパイヤ（霊感）と言う語はほとんど同じ語源を有しています。そしてほとんど共通した意味を持っています。神の思いは遙かに私たちの思いより高く、従って私たちは私たちの完成のために神の霊感が必要なのであります。

イエスは曾て〝われを遣わし給える者の御意を行ひ、その御業をなし遂ぐるは是わが食物なり〟（ヨハネ伝四・三四）といった時、彼の力の根源を説明したのであった。神の御意を行うことはまた私たちの最大な勢力の根源でもあり得るのであります。御父の御意を行う彼に従うように弟子たちを励ましながら、イエスは次のような私がテキストとして用いようとしている言葉を申されたのであります。〝目をあげて畑を見よ。はや黄ばみて収穫時になれり〟（同上四・三五）

確かに私たちの今日はこの主題に応答すべき最も切迫した時であります。私たちは目をあげて、私たちの義務を見つめ私たちの機会を理解せねばなりませぬ。私たちの責任を引受けて、真理を私たちの実生活に取り入れねばなりません。

私たちは主に命ぜられたように目をあげて神を礼拝し、隣人に仕えねばなりませぬ。

私たちはもちろんこの世には、もう一つの勢力があって私たちを下の方へ、地に向わせようとしていることを気付いています。神殿の頂上からサタンはイエスに向って〝己が身を下に投げよ。〟と言いました。サタンはその時以来、恐るべき成功を以て、このような命令を与えつづけてきているのです。いかなる失敗も、その第一歩は、いつも単に下を向いて地上のことに関心を奪われたことに起因しているのであります。同時に下を向き上を向くことはとても困難なことであります。

人は必ずしも常にどこを歩いているか見ていないものだが常に見ている方向に向って歩いているとはよく言われることであります。もし私たちが単に下を向いておれば多くの者が、必ず堕落するのであります。

往年、ある旧式の帆船に乗っていた未経験の若い船員が暴風の中を帆柱にもつれた帆を解くために帆柱によじ上りました。荒れ狂う波風をものともせず彼はすばやく一気によじ上りました。そしてたちまちにしてその任務を遂行しました。けれども彼が降り始めて下を向いた時に彼は恐れてふるえ始めました。彼は怒り狂っている海を見ました。彼はその波にほんろうされてちぢみあがっている船を感じました。そこで彼はつかんでいる手がもろく力なくなったことに気がつき大声で叫んで甲板上の人たちに援けを求めました。そこで船長は彼に下を見下ろしてはいけないと命じ、彼は上の方を向いて直ちに体のバランスと自信を取り戻すことができたのでありました。そして彼は無事に甲板上に戻ることができたのでありました。

下を向くことによって常に道徳的な動揺をもたらすことは私たちにとって一つの大きな問題であります。一般に、あまりにも多くの人々が下のことに心を奪われているのが現今の重大な特長であります。新聞、雑誌、及び私たち自身の傾向が、罪、犯罪、戦争及び物質的優越さに集中しがちであります。そこで私たちは混乱動揺し、私たちの生活はバランスを失いがちなのであります。

ここに私たちは偉大な国民の指導者が上向くことを止めて直ちに下を向いて、その生涯の目的を悪に集中し、他国民をも奴隷化しようとする最大な罪を犯している共産主義者たちの例を見ます。国民または個人々々が下を向いて彼ら自身より権威者を認めない時、彼らはたちまちにして善悪の意識を失ってしまうのであります。共産主義の指導者たちは、故意に多くの彼ら自身の民を亡ぼし、すきさへあれば、何のためらうところもなく世界中の民が神からあたえられているところの自由意志を奪うとしているのであります。彼らは政府の命令をもって教会を閉鎖し、今やその目を、思いを、また彼らの活動を神に向けるすべもなくしているのであります。

一九四六年三月五日、ウインストン・チャーチルはミズーリのフルトンで次のように言いました。

〝聯合国の勝利によって今まで明るく輝いていた舞台に暗い影がさし始めた。バルチック海のステッチンからアドリヤ海のトリエストまで大陸を横切って鉄のカーテンが降ろされた。〟

共産主義者たちは縦のカーテンを立てて彼ら自身をその隣人から隔離し、第二の大いなる誡命を破り、又それと同時に彼らの頭上に横のカーテンを敷いて、彼ら自身を神から隔離し、第一の最大なる誡命をも犯しているのであります。

けれどもある場合、私たちは私たちの物質的関心、社交上の雑事及び精神的な無関心さの鉄のカーテンを許し入れることによって神から離れ、私たち人生の主な目的から遠ざかって、個人的に前者と同様のことをなしているのであります。私たちが下を向くと間もなく、それ以外のことは何もいきなくなってしまうのであります。

ダンテはその地獄篇の中で、地獄の旅の想像を画いて居ります。そしてある地獄の住人が彼に言いました。

〝私たちの目が地上の物に向けられ決して天を見あげなかったので、今や義の神が私たちの目を下に向けて据えつけてしまった。そして貪欲が善に対する私たちの愛を滅ぼしてしまったので私たちの働らきも空しく、今や義の神は私たちを捕えて、足かせをはめてここに閉お込めてしまったのだ〟

私たちは泥掻きを持った人の物語り、バンヤンの天路歴程に私たち自身の状態の反映を見ることができるのであります。この人は地

上の籾殻や塵あくたを集めることにその生涯を過していたので下を向く訓練だけしたのです。彼の頭上に天使が立って、その手に日の光栄の冠を持ち、それを泥掻きと換えようと差出しているのですが、彼は引きつづき籾殻と塵あくたをかき集めているのでせっかくの天使の提供を無視してしまっているのです。

同様の気持ちでエドウイン・マーカムはその傑作の詩に〝鍬を持った人〟と題名しました。これを〝泥掻きを持った人〟と題名することもできるでしょう。これは創造者によって置かれた高い地位から人が堕落して家畜のような労働者となった世界的に有名なミレーの画に霊感されて書いたものであります。そして鉄のカーテンを頭上に敷いているこの人に就てマーカムは言っている。

〝世紀の重荷に彼の腰は曲った
鍬にもたれて地を見つめる
彼の顔に空しき月日が刻まれ、
彼の脊には世の重荷が負わされている。
誰が彼を喜びも悲しみも味えない
望みも持てない死物にしてしまったのか
鈍感な牛馬の類のように
その下あごをだらりとさせ
その眉をつりあげて
その頭脳の中の光を吹き消してしまったのは、
誰の息であろうか？

これが果して主なる神が造りあたえた者であろうか
海と陸をつかさどらせようとして
星を追跡し天上を探究させようとして
永遠の感情を得させようとして
これが太陽を造り昔からその軌道を備えた神の夢みた者であったのであろうか？
地獄の洞窟の最後の深淵に至るまで
これよりも恐ろしい容相はない
これ以上に世の盲目的な貪欲な感じをもって言い表わすこともできない。
人々にとってこれ以上悪い前兆はなく
世にこれ以上の危険はない〟

そこでマーカム氏は次のように問うています。

〝おお全世界の君主や支配者たちよ
未来はこの人を如何に勘定するであろうが、
その時、彼の動物的質問に如何に答えるであろうか。
反逆のたつまきが、すべての岸を揺り動かす時
王国と王はどうなるであろうか？
数世紀の沈黙の後
このおしのテロが立上って世を裁く時
彼を造りあげた者たちはどうなるであろうか？

質問への答

主の復活以後の復活について

解答者　ジョセフ・フィールディング・スミス長老
（12使徒会会長）

質問　私たちは救い主が墓からよみがえりたもうたときに復活がありまして、将来主が再び来りたもう時に復活があることを知っております。しかし、現在なお復活が行われていることを示す証拠となる聖句を見つけることはできません。私たちは予言者ジョセフ・スミスを訪れたモロナイ、ペテロ、ヤコブ、ヨハネ等が復活者であることをどのように説明しますか。聖書にはキリスト再臨の時の復活が最初の復活であると言ってあります。主が降臨なさる前に死んでいる義人たちにはすでに復活があったのでありますから、聖書に言ってある最初の復活とはもちろん私たちにとって最初の復活であると言う意味であります。

解答　主が復活なさった以前に復活があるはずがないということは本当である。パウロが言っているように、救い主は眠れる者の初穂となりたもうたからである。救い主は「復活の鍵」を保有したまい、主のめぐみによって復活は万人へ無償で与えられる賜物である。「アダムにあってすべての人が死んでいるのと同じように、キリストにあってすべての人が生かされるのである」（コリント人への第一の手紙十五〇二十二）。

聖書に記載してある復活に関する予言がいくつか示されているが、その大部分はいつ復活があるかはっきり言っていない。主はイザヤ、エゼキエル、ダニエルそのほかの人々に死者が不死不滅の者によみがえることを啓示したもうたが、聖書にあるこれらの書に載っている聖句の大部分は復活の時についてはっきりしていない。これについて最も明瞭な啓示のいくつかはモルモン経と「教義と聖約」の中に見出される。ラザロが蘇生するすぐ前に主がマルタと会話をなさった中に、主は次のような言葉で復活が真実あることをきっぱ

りと述べておいでになるが、これは復活に関する非常に深い意味の言葉である。

「わたしはよみがえりであり、命である。わたしを信ずる者は、たとい死んでも生きる。また生きていて、わたしを信ずる者は、いつまでも死なない、あなたはこれを信ずるか」（ヨハネ伝十一〇二十五―二十六）。

またユダヤ人に向って次のように万人の復活を宣べたもうた。

「よくよくあなたがたに言っておく。わたしの言葉を聞いて、わたしを遣わされたかたを信じる者は永遠の生命を受け、またさばかれることがなく死から命に移っているのである。

「よくよくあなたがたに言っておく。死んだ人たちが、神の子の声を聞く時が来る。今すでにきている。そして聞く人は生きるであろう。

「それは父がご自分のうちに生命をお持ちになっていると同様に、子にもまた、自分のうちに生命をもつことをお許しになったからである。

「そして子は人の子であるから、子にさばきを行う権威をお与えになった。

「このことを驚ろくには及ばない。墓の中に居る者たちがみな神の子の声を聞き、

「善を行った人々は生命か受けるためによみがえり、悪を行った人々は、さばきを受けるためによみがえって、それぞれ出てくる時が来るであろう」（ヨハネ伝五〇二十四―二十九）。

ヨハネはその示現の中に世界歴史に関するいろいろの大事件、王の王としてキリストが来りたもうこと、おこび万人の復活とを見て次のように言った。

「また死んでいた者が、大いなる者も小さな者も共に、御座の前に立っているのが見えた。かずかずの書物が開かれたが、もう一つの書物が開かれた。これはいのちの書であつた。死人はそのしわざに応じ、この書物に書かれていることに従ってさばかれた。

「海はその中にいる死人を出し、死もよみもその中にいる死人を出し、そして、おのおのそのしわざに応じてさばきを受けた。

「それから死もよみも火の池になげこまれた。この火の池が第二の死である」（ヨハネ黙示録二十〇十二―十四）。

以上、提出された質問を考えるに先き立ってここに述べたのは、世の中には万人の復活を信ぜず、悪人たちが焼きつくされてなくなってしまうと教える人が多くあるが、この教えは聖典にある予言の真意とちがっているからである。主はその言葉の中で、すべての者が復活するはずである、義しい人々は神の御国に入り、悪人たちは教えに背いたために罰を受けると強く言いたもうた。主はめぐみを施して、できるだけのことを万人に為したもうにちがいないと言ってもよいであろう。或る者は功によって日の栄の国に入り、他の者は「最後の一厘を償う」まで自らの悪に対して支払うにちがいない。神の誡命をことごとく守り、日の栄の国に昇ることを規定しているすべての誓約と義務に忠実であった者は日の栄の国に昇ることを許され、他の者はその身に於て為した行いに応ずるような栄えの国に入るか、もしくは栄えの国にも入ることを許されない。しかし、天にましまし父なる神と御子イエス・キリストとはめぐみにより、数々の祝福を受けた後に聖霊を否定している人々を除き、全人類に対して彼らの状態と能力とに応じて月の栄、星の栄、もしくは

その他の場所を与え、そこで得られるかぎりの幸福を享けさせたもうにちがいない。

主が復活なさったとき、主の誠命を守ることによって自らが義しいことを証明した人々はのこらず復活をした。予言者アビナダイは次のように、これらの人々に関することを明瞭に述べている。

「主がその民のためになしたもうた創世の前から定まっているキリスト身代りの贖罪がなかったならば、まことにそれがなかったならば、人はみな永遠に亡びるほかはない。

「しかしごらん、死のなわ目は断ち切られた。御子は君臨して死者を司どる権能を持ちたもう。従って御子は死者を復活させたもう

「それであるから復活が起る。これはすなわち第一の復活であって過去の人と現在の人とキリストの復活がある時までの将来の人との復活である。キリストとは御子のことを言う。

「さてすべての予言者とその予言を信じ神の命令を守ったすべての人々は第一の復活の時によみがえる。そのよみがえるのはすなわち第一の復活である。

「これらの人々はよみがえって、自分を贖いたもうた神と共に住むことができる。このようにしてこれらの人々は、死のなわ目を断ち切りたもうたキリストによって永遠の生命を得るのである。

「また救いの道を教えられなかったからその道を知らずに、キリストが降臨したもう前に死んだ者も第一の復活にあずかる。主はかような者にも復活を与えたもう。これらの人は主に贖われて第一の復活にあずかり永遠の生命を受ける。

「また幼児も永遠の生命を受ける。しかしごらん、あなたらは神の御前にあそれおののかなくてはならない。主は主に逆らって罪を改めないままに死ぬような者たちを贖いたまわない。それであるからあなたらは当然おそれおののかなくてはならない。世の始めからこのかた、わざと神にそむき、神の命令を知りながらこれを守らず、罪のあるままに死ぬ者は第一の復活にあずかることができない」（モーサヤ書十五〇十九―二十六）。

ヨハネはその示現の中でキリストが再臨したもう時を見てそれを第一の復活と言っている。それは主の主が王の王として来りたもう時までにこの地上に生を受けたことがありまた生を受けるはずである者にとって第一の復活であるからである。これらの者についてヨハネは

「この第一の復活にあずかる者はさいわいな者でありまた聖なる者である。この人たちに対しては第二の死は何の力もない。彼らは神とキリストとの祭司となり、キリストと共に千年の間支配する」と誌している（ヨハネ然示録二十〇六）。

また「教義と聖約」には次のように復活のことが誌してある。

「また墓に眠りてありし者たちはその墓開かるる故に出で来り、天の柱の唯中にて主と会わんために彼らもまた挙げられん。

「すなわち彼らはキリストのもの最初の実なり。そはキリストと最初に天より下る者、また地の上墓の中などに在りて彼を迎えんがため最初に挙げらるる者たちなり。而して、すべてこの事は神の使ラッパを吹鳴らす響によりて起る。

「この後、ほかに今一人の天使吹き鳴らすは第二のラッパなり。それより、キリストの来る時に彼に属く者の贖い来る。この者たちは福音を受けて肉を有てる人としてさばきを受けんがため、この者たちのために備えられたるひとやにありてその分を受け居りたる者

たちなり」、（「教義と聖約」八十八〇九十六―九十九）。

義しからざる者の復活、すなわち最後の復活は「福千年」の終り、もしくは「地球の終り」に起る。これらの者は再び生きるにちがいないが、彼らの行いに応じてその所に行くべき命を受けているからである。

以上説明を終って、質問の要点に触れることにする。何故ペテロヤコブ、ヨハネおよびモロナイは、第一の復活に死者を呼び出す天使のラッパの鳴らぬ前に復活をしているか。この質問はヨハネを入れているがそれはまちがっている。われわれの了解するところによると、ヨハネはまだ復活していない。それは、キリスト再臨のときまでヨハネは死を味わずに地上に留まると約束されているからである。そこでペテロ、ヤコブ、モロナイ（その他の人々）の場合に対する答えは簡単である。これらの人々は復活者として為すべき重要な仕事をもっていたからである。主はペテロ、ヤコブ、モロナイ（そのほかまだわれわれに知らされていない人々）の場合の如く、もしも何か特別の使命を遂行させる必要があるときには、いつなりとも一般の復活を持つことなく、何人なりとも死者の中から復活させる権能を保有したもう。イエス・キリストは「復活の鍵」をもちたもうことがこれらの場合を通じて明らかとなった。しかしながら、一般の復活は今行われていないと結論しなければならない。さもなければキリスト再臨のときに当って「復活の夜明け」のあるはずがないからである。

練習の讃美歌（十月用）

「第八八番　日は暮れ」

「子等は歌う」の中に編集されていますので知っていらっしゃる方は多いと思いますが、これからは日曜学校でも使うように練習して下さい。楽譜的にはやさしいと思いますが、指揮者は四拍子をよく規則正しく振るようにして下さい。そうするとこの歌は歌いよくなります。

来月の練習の歌は一四六番「たたえよ神を」

子供日曜学校練習の讃美歌（十月用）

「二五番　幸あれ」

まず歌を教える教師が歌をよく練習して完全に覚えて下さい。正しく覚えて下さい。そうしないと子供たちは間違って一度覚えてしまうとなかなかなおりませんから、この歌は八分の六拍子で四分音符と八分音符を交互に使っていますので、この拍子を始めに呑み込ませて下さい。長く伸ばす所は、その楽譜の通りに伸して下さい。

（三段目の三小節の様に）

来月の練習の讃美歌は十七番「安息の朝」

はいず

日本民族は希伯来（ヘブライ）の正統なり　(二)

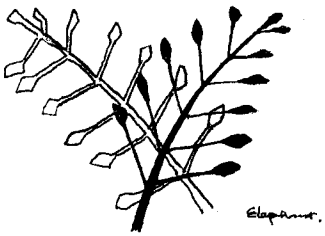
小谷部全一郎

四、獅子と獅子舞

日本国内には絶体に獅子を産しないのに不思議にも国碑に之を伝えているばかりでなく日本の各神社の入口には必ず雌雄一対の獅子の石像が置かれ、また木で刻まれた大型の獅子頭を神社に置いてあるものがあり、氷川神社に伝わる有名な獅子頭の耳に菊の紋章があり、また陸奥北津軽郡五所川原に鎮座の八幡神社は長慶天皇を祀るものにその神体を拝するのに衣冠束帯の木像の直垂の正面と左右両袖の辺に獅子の模様を紋章のように附してある。これらによつて判断するのに獅子と神社及び獅子と皇室とは何等かの因縁があるように察せられる我国には昔から獅子舞と称するものがあつて、明治六年、ロシヤの皇族が来朝した時、浜離宮で獅子舞を台覧に供し又翌七年、イタリーの貴族が来遊した時も同様のことがあり、その頃ま

で獅子舞は我国の代表的の演舞で、今日稍廃れたのは外国の文化と共に入つて来た目新しい演芸に圧倒せられた為であるけれども杵屋六左衛門に作曲せられた名曲越後獅子に名残を止めて永くその俤を伝えている。

希伯来人の諺に「悪人は逐ふ者なけれども逃げ、義者は獅子の如く勇まし」（箴言　二十八・一）と、獅子は百獣の王で猛く勇ましいので上古ユダヤ人はその旗幟に獅子の像を用いた。尚之は祖先ヤコブが勇敢なその子ユダを獅子にたとえて予言したことから出たものであつて創世記四十九章に「ユダは獅子の子の如し、わが子よ汝は所掠物をさきてかへりのぼる、彼は牡獅子のごとく伏し牡獅ごとく蹲まる誰か之をおこすことをせん」云々とある。彼らはまた王宮及び神殿の装飾に獅子の像を以てした。ソロモン王の高御座、即ち玉座の四方の脚は黄金の獅子を以て飾られ、また神殿に獅子の彫像のあつたことを古典に伝へている。列王紀上、七章に「かがみ板の上に獅子と牛とケルビムの像あり、また辺の上に座あり、獅子と牛の



下に花飾りの垂下物あり」云々とある。また列王紀上十章に「その宝座に六つの階段あり、扶手の側に二つの獅子立てり、又その六つの階段に十二の獅子、こなたあなたに立てり」云々とある。このように獅子は、日本の神社その他高貴の表徴物であるように上古希伯来においても一般に尊重せられ、紋章にまで獅子を表示した彼我の一致は単に偶然とは見ることができない。

五、榊と注連縄

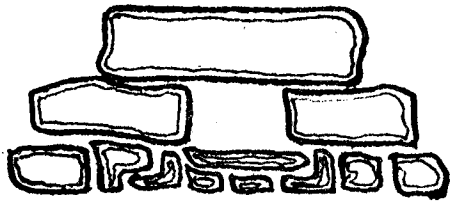
我国の神道の清めの式に神職が榊の枝を以て穢を祓ふを法とし、また玉串として神前に供うる等、古くから榊は、神事に欠く可らざるものの一となつている、榊は山茶科暖地自生の常緑樹で小豆大の果実は球形、熟後黒色を呈する。二、三種類あるけれども、祭祀用のものを、マサカキという。

上古希伯来人は祭祀及び神事に、我国の榊に以たヒソプと称する青葉で小粒の実のなる灌木の枝を祭司が清めの式に使用し、また神前に供へた。詩篇五十一篇七節に「神よヒソプをもて我を清めたま

え。さらばわれ浄まらん。我をあらひまえ。さらばわれ雪よりも白からん」云々とある。この榊に類するヒソプを以て清めの式を行う規定をレビ記十四章に載せている「その家を潔むるために鳥（鳩）二羽に檜の枝と紅の絲とヒソプを取り、その鳥一羽を素焼の器の中にて殺し、檜の枝とヒソプと紅の絲と生ける鳥を取りて、これをその殺せし鳥の血なる活ける水に浸して七たび家にそそぐべし」云々我国の神職が榊の枝を振つて祓うようにするのは、所謂払ひ去るのではなくて、榊の枝で水をそそぐ形式と取違へているようである。

我国で注連縄を神前又は聖別せる室内及び器物、その他年始に人家の門戸に張ることは人の知る所である。神代に之をシリクメナハと称したことを古事記に伝えてあるので、最も古くから我が国で行われていたことを知る。

上古の希伯来人にも神殿の柱及び神器、手洗盤などには、これを清める意味で縄を張り廻すこと、丁度我が注連縄を張るような習慣がある、列王紀略上七章のソロモン王殿殿造営の条に「銅の柱二脚を鋳たり、その高さ各十八キユビトにして、各十二キユビトの縄を



還らすべし」云々、また「手洗盤を鋳なせり。この辺より彼辺まで十キュビトにしてその四周円く、その高さ五キュビトなり、その四周は三十キュビトの縄をめぐらすべし」云々。

凡そ一物の起るには必ず依て来る原因がある。我国の注連縄の由来するところも遠いことであろう。

六、自然石で神壇を築くこと

著者は伊勢大神宮へ参拝の都度、不審に堪えなかつたのは、内宮外宮共に神殿の四周の石垣には一の切石もなく、悉く清らかな自然石のみであつた。これは他の古い神社でも同一で何らかの故実に基いて人工の切石を忌むものであろうと考へ、爾来調査する所あつたが国書には遂に見当らず、猶太経典を調べて、始めて往古三千年前に、神壇を築くには鉄の器を当てた所謂切石を使用すべからずといふモーセの律令あることを発見した。出埃及記二十章二十五節に、神の命じ給ふ言として、「汝もし石の壇をわれにつくるならば、切石をもてこれを築くべからず、そは汝もし鑿をこれに当てなば、之を汚すべければなり」と。我が国の古社の制も神の命に依るものであ

ろう。またこれと同一の戒律を申命記に伝へている、同書二十七章五節に、「其処に汝の神のために石の壇一座を築くべし。但し之を築くには鉄の器を用いるべからず、汝自然の新石をもて汝の神の壇を築き、その上にて汝の神に燔祭を献ぐべし」とこの申命記は、紀元前約千二百七十七年すなわち今を去る約三千二百五年前に、モーセによつて記された五部書の中の一書である。神武天皇が大和の鳥見の山麓に石を廻らして壇を築き天神を祀るとあるは、恐らく自然石を以てせられたものであろう。山麓か丘上に自然石を積んで壇を設け、幣を立てて天神を拝したのは我国古代の風習である。希伯来においても紀元前一〇一七年ソロモン王が始めて、モリヤの丘に神殿を造築するまで、山または丘の上に自然石の壇を設けて神拝した。列王紀略上三章二節に「その頃まで神の名のために建てたる宮なりければ民は崇きところにて祭を為せり」と、列王紀上篇は紀元前一〇一五年に記されたもので文中にその頃までとあるのはソロモン王がまだ神殿を建てなかつた頃を云う。以上によつても両者がいかに酷似しているかがわかる。

ノーロコンクール

勉強と信仰

中田　力（仙台支部）

モルモンの門をくぐった人で、モルモンの持つ信仰に対し不思議さを感じたり、疑問を持たなかったりした人はいなかったろうと思う。私もその一人として、また神の実在を知って間もない者として、勉強と信仰について考えることを述べたいと思う。

まず人はいかなる方法によりイエス・キリストの信仰を持ち得るであろうか。キリスト教国では案外スムースにそれが行なわれるかもしれない。なぜなら、小さなころからの環境が、人間の心の中に、神の存在の意識を、習慣性をもって植えつけるであろうから。ところが日本の場合、多くの人はおとなになってさえも、キリスト教に対しては、無知にひとしいのである。雑多な思想がつめこまれていて、すなおな状態から縁遠く感じられるのである。それでは日本人はクリスチャンになりにくいのだろうか。統計的なことは知らな

いが、あるミッション・スクールの教授が日本人への宣教は、いのちの危険にさらされる野ばん人への宣教より困難だといっている。しかし同じクリスチャンでも、モルモンにはどうだろうか。やっぱりなりにくいのだろうか。それを調べるのは簡単である。モルモンに「あなたは最初からすなおでしたか」ときけばよいのである。多くの人は、たぶん首を横にふるであろう。私もその中の一人だ。モルモンについても、はじめからすなおに信じる者のみが、モルモンの信仰を持ち得るというのではない。

パウロはキリスト教に対して、すなおどころか、迫害者であった。それが神の恵みにより改宗するや、キリスト復活の熱烈なあかし人となった。ではわれわれはなにによって信仰が持てるであろうか。宣教師は「もしあなたが信ずることができないようでしたら、勉強してください。そして祈ってください」というが、実際そうだと思う。祈りと勉強によるのである。だがジョセフ・スミスが十四歳のとき祈ったとき、神がどんなものであるか知らない、しかし存在することはたしかだということを信じて祈ったのである。つまり神の存在の意識できる者の祈りはたしかに強いのであるが、神の存在を疑いながら祈る者の祈りは、風の吹くままにゆれ動く海の波に似て、断固としたものがないから、弱いのである。結局、信仰を持つために勉強するなどというのではなく、勉強しているうちに信仰を持たざるをえなくなるというのが、適切かもしれない。かといって、別におどかされるからではない。目がひらけてくるにすぎないのである。「めざめよ！」とパウロのいったことばが、身にしみて感じられるようになるのである。

さて、その信仰を持たざるをえなくなるという勉強は、なにをどのように勉強すべきか。第一に聖書研究であろう。これによっても人は、信仰を持たざるをえなくなる。モルモン以外のクリスチャンが、その例を示してくれる。しかし現在の聖書の不完全さから、人により意味のとり方がかなり違って、教義がさまざまである。しかしそれでも、形ははっきりわからないが、神というものの存在がたしかであることを知るであろう。次にわれわれはジョセフ・スミスを信じるとき、肉体を持った神を知るのである。キリストが二千年前「われを信ずるものは父なる神を信ずるのである」といったと同じように、ジョセフ・スミスを信じることは、神と御子を信じることである。なぜなら、彼は神と御子を目でみたといっているからである。彼が真なら、神は実在であるわけである。そこでわれわれはジョセフ・スミスを心理学上から、または歴史学的に調べればよいわけである。また彼が二十四のとき世に出したモルモン経をはじめ、神からの啓示のまとめであるという教義と聖約、そして高価なる真珠などの聖典を、聖書と比較すること、また彼とともに、いく人かの復活人に会ったとあかしするオリバー・カウドリー、そしてカウドリーを含めた三人の見証者、また八人の見証者など、かぞえきれぬほど調べる材料がある。人は調べることを半分もせぬ間に、神の実在を知ることができるであろう。以上のことを調べるのに特殊な才能、つまり知能、または霊的に、人よりすぐれていなければならぬということはない。つまりモルモン教会にかんしては、やさしい勉強だけでも信仰を持てるわけである。それにより、最初のうちは神の実在を感じるのだが、勉強がすすむにつれ、宣教師たちが「私たちはこれらのことをよく知っております」というように、目でみて知るのではないが、ただに信じるという状態を越えた知って

いるという状態になるわけである。

それで信仰を獲得したら、勉強はしなくともよろしい、というのだろうか。そうではない。こんどは信仰によって勉強せざるをえなくなるのである。なぜなら、信仰を持つ人なら、宣教をせねばならぬと思うだろうから。そしてそれには、より学ばねばならないのである。そしてその人は学ぶことにより、よりいっそう信仰が強くなるのである。勉強と信仰は循環するものである。

最後にわれわれは「もし人が自分はなにか知っていると思うなら、その人は知らねばならぬほどのことすら、まだ知ってはいない」ということをおぼえ、心をつくし、霊をつくし、神について学ばねばならぬ。

（学生・十八歳）

若きモルモンの責任と義務

島崎　和子（旭川支部）

現代語の中に〝怒れる若者たち〟という言葉を良く聞きます。何に対して怒るのかは、アメリカやイギリスでは大体明らかになっていて理解できないことはありません。しかし、日本においても、この言葉にあてはまる若者が多くあります。でも私には、日本における若者が何に怒るのかは理解しがたいのです。私も若き世代に生きる一人として考えてみたいのです。

今の若い人は、生きる目的を見出そうともせず何となく生きている若者が余りにも多いのです。正しい知識、信条など学ばうともしない若者が多くおります。私は中学生の時バプテスマを受け弱い信仰ながらもモルモンとして生きる方法を学んだのです。それは小さいけれど心のささえとなり、希望を抱くことができました。そしてその希望は、今も変りなくあります。私は、神が生きてましまし御子は、私たちの救主であることを知りました。本当に素晴しい御教えを知りました。私は、この福音を身につけようと決心しました。それは、とても困難であるかもしれませんが、価値あることと確信しております。この複雑な世代にあって正しく生きようとするのはモルモンの生活であり、責任と義務でもあります。その中に美しいもの、尊い価値あるものを見いだし、受け入れ生活するうちに、自然にモルモンとしての正しい人格がそなわると思います。私には、真理を見いだそうと努力している人々に、また、憂うつなる日々を送っている人々にも、福音の光を輝す機会があたえられています。いいえ、私だけでなく、多くの若い人々にです。それらのことを喜んでしようと決心し、実行に移すことはモルモンとしての正しい態度であります。

「若きうちに神の国を求めよ、神を知りなさい」の聖句は、私たちに正しい信念を持つこと永遠の真理を見いだすよう教えています。

友情について

中野　正之（札幌支部）

朝鮮事変で一アメリカ兵が負傷し、北鮮軍の捕虜となった。この負傷したアメリカ兵の友だちが敵の手に落ちるのを見ていた一人の南鮮の兵士が身代りになるからアメリカの友だちが故国に帰ることができるようにと自らの生命を犠牲にして頼んだという話がありますが、それもイエスが次のように語られたのは他ならぬこの南鮮兵のような人についてで

しょう。

「わたしの誡命はこれである。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互に愛し合いなさい。人がその友のために自分の命を捨てることこれより大きな愛はない。」

（ヨハネ伝十五章）

時折人がそのために己れの生命を捨てなければならない場合がある。しかしそのような英雄的な行為が必要とされる時はごく稀にしかない。真の友情はもっと普通一般に日常の簡単な、目立たない、思いやりある、特別に英雄的でない行為によっても同じく効果的に示される。私たちがごく普通の生活にあってその友だちを助け、手伝うことを行うための手段として、友情について考えてみましょう。

友情は決してその友情による利益や報酬を期待してはならない。友情はその人に対する敬愛を自分の内に抱けることを友情の幸福としなければならない。それが友情の利益であり、友情の報酬である。それゆえに古い格言に「友を得るには、友となれ」と云われているがまさしくその通りであります。

真の友情は、真の独立人と普通の独立人との間においてこそ、健全にむすばれるものであることを決して忘れてはならない。

私たちは、友情を友だちとの間に深めて行けば、深めて行く程その自分の友情の心の内にその友に対する真の独立人が決して持ってはならない依頼心が忍込んではいないですか。そう云う反省が友情を長く、美しく保つためにいつも必要だと僕は思っています。

〝依頼心こそ友情の敵である〟

宗教と生活

長谷川美智子（小樽支部）

現在日本では沢山の宗教が入り乱れています。幸い私たちはモルモンと言う誇るべき道を知っています。モーサヤが「私たちは皆、物もらいではないか」と語っていますが、今自分自身をふり返って見て、自分の愚かさを再び考えさせられました、「早く平和な世に！」といつも私は願っていますがしかし現在の非行少年と言われている者の多くは、家庭が貧しく、親の愛また理解に欠けていると言われています。私たちはそのような人をこそ、大きな愛の導びきによってモルモンの大家族の中に招こうでは有りませんか？私は時々、こんなことを考えます、「現在の大人の人たちはたちは私たちと同じ年頃の時には、私たちと同じ願いがなかったのだろうか」きっと大人の方々も愛をほしいと願ったことが幾たびか有ったはずです。私たちの年頃の人たちは、あまり宗教に付いて知ろうとしない、彼らが少しでも早くそれらに付いて知る機会が有るように願います、全世界でただ一つの教会となる日まで私たちは、「物もらい」としてその何分の一かのお礼に私たちの兄弟で有る全ての人々に分けあたえよう」。小さなそれでいてがんばるアリのように、休まず働こう、御口の建設のために、迷える小羊のために、けわしい道だけれども、決して神は見捨てはしないであろう。最後に、私たちは真の教会がモルモンであることを信じ、末日聖徒イエス・キリスト教会が全世界でただ一つの神の教会であることを証しいたします。

アロン神権

ブランチティーチングレッスン

「安息日を守るは会員一人一人の責任」

安息日を破るという習わしが非常に普通のことになっている今日、この神の律法に対する私たち一人一人の態度を自分自らしらべてみる必要があります。

安息日について主が命じたもうた律法に反することをする習慣を一度つけると、それは急流の中に落ちたと同じことであって、全力をあげてその激しい流の中から脱出しないと身を亡ぼしてしまうにちがいありません。安息日を守らないという傾向は、安息日も平日も区別をなくすることであります。昔安息日に働いた人々は最も重い罪人にされました。今はもはやそうではありません。しかし、安息日に仕事をすること、商売をすること、娯楽にふけること、安息日に対して全然無関心でいることの四つは明らかに大きな罪であります。

職業の性質上、日曜日にも働らくことを要求される人々は間違っていません。しかし必要でないのに日曜日に働らく人々は重大な悪事を犯しているのであります。

日曜日にも畑の中で、自動車の上で、庭の中で働らくことと、必要でもない家事を行うことは今日どこへ行っても見られます。また日曜日に売り買いをすることが多くなっています。私たちの大部分は日曜日に働かなくともよいので幸福であります。それにもかかわらず、私たちは日曜日に買物をする習慣をもっているので、商店の人たちは私たちが反対をしていることをやむを得ず行っています。もし日曜日に誰も買物をしなかったら、どこの店もすぐ戸をしめてしまうことでしょう。私たちが日曜日に買物をするときには悪事に加担しているのであります。しかし、緊急やむを得ない時は別であります。日曜日に店をしめたいと思っている商人はたくさんありますが、一般の人々が要求するためと商人同士の競争があるので、やむを得ず店を開いています。

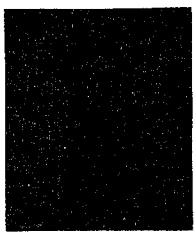
日曜日にレクリエーションを求める人々は、おそらく安息日を破る人々の中で一番多数を占めているでしょう。

釣り魚やボート遊びのために溪流や湖に行くこと、溪谷に行くこと、避暑地に行くこと、いろいろのスポーツ、運動競技の催おしは、最もよく行われる日曜日の娯楽であります。これらの娯楽に熱中する人々の中には、自分たちは平日一生けんめい働いたのだから日曜日になにかをして楽しむ資格は充分あるのだと言って、安息日を守らないことを正当化する人々があります。自分には金も財産も僅かしかないからと言って、その人に他人のものを盗んだり奪ったり、人を殺したりする権利があるでしょうか。「汝盗むべからず」「汝殺すべからず」と仰せになったその神は

また「安息日をおぼえて、これを聖とせよ」と仰せになりました。

以上のほかに別の種類の人々があって、この人々は日曜日に働らくこくことも、売ることも、買うことも、遊ぶこともしません、これらの人は主の働らきに何の興味もなく、日曜日はこれらの人にとって体を休める日であります。これらの人は日曜日を眠って食べて休んで暮らし、宗教的のことを考えもせずまた礼拝もしません。これらの人は神を忘れたのでありますから、ほかの人と同様に大きな罪を犯しております。今や私たちは、自分らの日曜日に対する習慣を反省して、主の御言葉のように安息日を聖く守るかどうか決意をすべきときであります。

メルケゼデク神権



第一長老定員会の計画

会員及びその家族の福祉向上をはからんとする定員会は、その目的完遂のため、種々の活動をたずさえています。例えば、教会員の交りと友愛を深めるための、ソーシャル・レクリエーション活動、会員の福祉厚生をはからんとする諸活動、宣教師援助のための基金募集計画、一般市民及び教会の仕事に関する諸活動があります。これらの諸活動を、促進するには、数々の仕事が必要でしょうが、より早く、より充実した活動が現実化されるよう諸兄のご協力を、お願いいたします。

鍛冶屋は鉄をきたえる術においては、ナポレオンにまさり

大工は家を建てる術においては、ナポレオンにまさる

看護婦は病人の世話をする術においては、ナポレオンにまさる

とある人は申しています。

どうぞ皆様特有の提案ご意見をお聞かせ下さい。「兄」、「弟」の名にふさわしく、良く知り合い、皆様のご理解を通して、定員会に、力があたえられ、身近なものへと発展しますよう、お願いいたします。最後に幾つかの提案を列挙してご便宜に供したいと思います。

提案・計画例

一、家庭が催すパーティ、晩餐会、映画、音楽、演劇等の鑑賞会、スポーツ大会、旅行、ハイキング

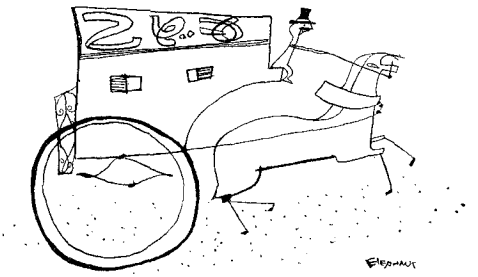
二、会員の就職、取引、住居問題等の世話をみること。

三、教会出版物の販売、市場経営

四、墓地、公園、運動場の建設及び美化、系図探求、音楽活動等の後援、宣教師援助、出版物の発行、会員の教会活動参加への種々なる援助、図書館経営、写真事業

子供の日曜学校ガイド

10月用



視覚教材の一つとして、黒板を使って絵を書きながらレッスンあるいは活動にお使いになってみてはいかが？　この物語は、シロアムの池と題され、すでにお馴染の物語です（ヨハネ伝第九章）場面、言葉等、非常に簡単にふっていますが必ずこの通りにしなくても結構です。多いに、先生方の腕をふるっていただいて、良き方法へと改良を望みます。実際に行う時に、どのようなことに注意しなければならないか、効果的に運ぶにはどうすれば良いか、御一緒に考えてみましょう。まず次のようなことが云えるのではないでしょうか

(1)絵を早く書きあげる。言葉との釣り合いを考えて、（言葉が終ってしまっても、まだ書いているのは、あまり芳しくない）

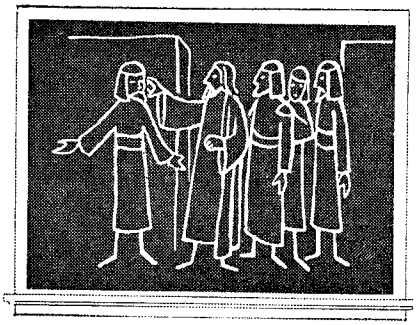
(2)次の場面に変る時も、巧く連結させるよう言葉の使い方に特に注意

(3)絵はできるだけ簡単に、必要なものだけを書く、背景等に、こる必要なし、できたら一筆がきが好ましい。

(4)黒板消しは、常にきれいにして置く。

(5)絵をかくことに慣れてきたら、色チョークを使いわけてみるとさらに面白みが加味する。

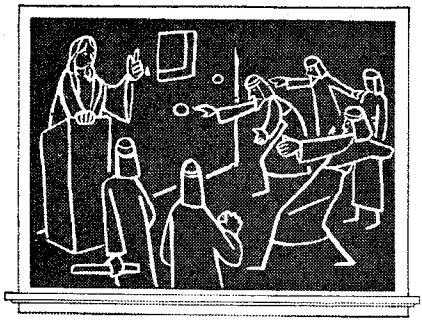
その他、まだまだ細かい注意をはらわなければならないと思います。先生方は本番のつもりで数度の練習をしてください。子供たちは何度も紙芝居でみなれた、聞きなれた、物語も、きっと新鮮な気持で聞いてくれると思います。次の場面に先生は、どんな絵を書くのかしらと？　または二人で協力し合ってもいいと思います。一人が書いて、一人がお話をします。この際は、二人のタイミングが巧くないと子供たちの気持を逃がしてしまいます。何等にせよ、先生方には、日頃の練習が必要です。月曜日になって始めてレッスン活動



第二場面の説明

(1)背景は中庭の壁がみえる所

(2)活動＝イエスとその弟子たち、盲人の側に立っている。弟子たちとイエスとの会話、盲人はイエスに心から感謝する。イエス彼を癒す。



第一場面の説明

(1)背景は神殿の中庭

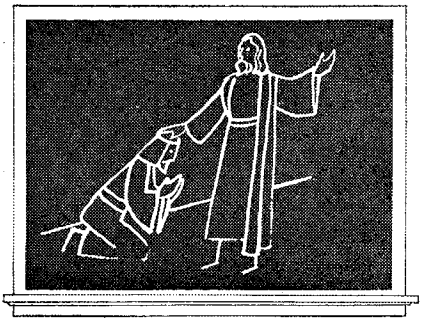
(2)活動＝イエスは人々に説教している。数人の弟子が彼をとりまいている。人々は彼らに回って石を投げつける、イエスとその弟子たちその場を去る。

の準備をするのでは甚だ困ります。準備には少くとも数日の時間が必要なはずです。

物　語

イエスが住んでいた地方の人々は、彼らの知っている天在なる神のことを聞きに、ユダヤ人教会に行きました。イエスも時々、この場所を訪れ彼らが良き人々となるために説教をいたしました。イエスがジエルサレムにいた頃彼は度々神殿の庭において人々に説教されました。ある安息日の朝、イエスとその数人の弟子は神殿の中庭で、人々にとって大切なことを教えておりますと、聴衆から怒りをかいました。彼らは石を拾い、イエスたちをめがけて投げつけます、人々の怒り、そして馬鹿げた行いをみたイエスたちは、急いで群衆から逃れました。（第一場面終り）

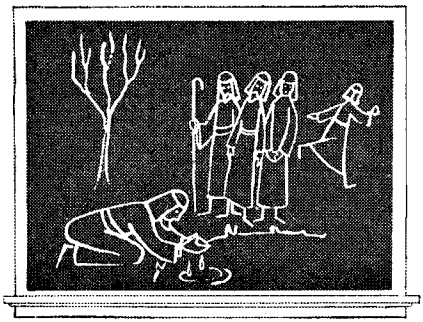
イエスが道を歩いていると、一人の盲人に気がつかれました。弟子たちも盲人に気がつきました。そして、こうイエスに質問しました。「彼はどうして目くらなのですか？　神が罰をお与えになっているのですか？」と、イエスは答えました。「天在なる父は、彼が盲人であろうとなかろうと、神は彼を愛し給う」と、盲人はニッコリと微笑しました。盲人はイエスが、このように云ってくれたのを聞いて幸せに思いました。盲人は良い人になりたいし、また良き行いをしたいと望んでおりました。盲人は、もしも目がみえたら今よりも、もっと良いことができるのだと感じました。盲人はイエスに親切な言葉をどうもありがとうと礼をのべました。イエスは地につばきをし、そのつばきで泥を作り盲人の目にぬりました。それからこう云いました。「シロアムの池で洗いなさい」と、盲人は少しもその言葉を疑うことなく杖を頼りにできるだけ急いで池へと向いま



第四場面の説明

(1)背景は道端

(2)活動＝盲人だった人が再びイエスと逢う。イエスこそ神の子であることを学び、彼はひざまづき、イエスを拝した。



第三場面の説明

(1)背景はシロアムの池

(2)活動＝盲人が目を洗っている。彼は目がみえるようになったことに気がつく。

した。イエスの言葉通り、それをする信仰が盲人にはあったのです。きっと彼は癒されるでしょう。（第二場面終り）

盲人は池につき、手で水をすくいあげ目を洗いました。彼の目はあきました。彼は自分の目がみえるようになったことに気がつきました。彼は池にいる他の人をもみることができます。水、青い空、そして美しい花、なんと彼は感謝したことでしょう。今は、もう自由に歩くことができるのです。どの人から物乞をしなくてもよくなりました。彼にとって、何と素敵なことでしょう。彼は歩き始めました。彼を見知っていた多くの人々が云いました。「どうして、お前の目はあいたのか」。彼は答えました「イエスという方がなおしてくれましたと、この話は人から人へと伝わりました。人々はもと盲人だったこの人をパリサイ人の所につれてゆき、いったい誰が目を癒してくれたのか質問しました。盲人だった人は「イエスという方が、どろをつくって私の目に塗り『シロアムの池で洗い落すよう』と云われました。それで行って洗うと見えるようになりました」。あるパリサイ人たちは「その人は神からきた人ではない。安息日を守っていないのだから」。とうとう盲人だった、この人は、会堂から追い出されてしまいました。（第三場面終り）

イエスは、盲人だった人が外に追い出されたことを聞きました。彼に逢って「あなたは、神の子を信じるか。」「主よ、それはどなたなのですか？」「今、あなたと話しているのがキリストである」すると彼は「信じます」と云って、イエスの前にひざまずき彼を拝しました。彼は心の中に素晴らしい祝福を得ることができました。

（第四場面終り）

日曜学校ガイド

10月用

SUNDAY SCHOOL

十月一日「日曜学校基金募集の日曜日」

私達の教会の違っている一つの大きな点は職業的牧師の生活費のための「献金」を行っていないということです。教会のすべての行事はあくまで各会員の奉仕によって行われるべきものであって必して報しゅうを受けるべきものではないのです。イエスの弟子達はすべて仕事をもっておりました。その意味で私達の教会はイエスの原則に従っております。ただ一年に一回だけ「日曜学校の運営が円滑に行えるための一助とするため基金募集」を行うように予言者を通して主はその計画を私達にお与えになりました。これは主としてデゼレト日曜学校協会のパンフレットなどに用いられます。この伝道部では各人にあまり負担にならないような金額として一人五十円以上を決めて行っておりました。今年は十月の第一日曜日である一日にしました。この計画を成功させるに趣旨と協力をお願いするチラシと封筒を前の週に皆に渡しておくなどの方法は如何ですか。尚この献金はあくまで自由意志によるものであり、名前の記入は必要ありません。子供の日曜学校でも御両親の御協力をお願いして下さい。

役員教師の皆様へ

私は伝道部長、東中央地方部長よりできるだけ支部を廻るようにと命令されています。それはすべての支部の日曜学校が一日も早くその目的である神への礼拝と福音の研究が一番理想的な形で行えるようりお手伝いするためであります。（残念ながら実質的には余りお役に立っておりませんが）ここ半年の間東京横浜支部を訪問して気がついたことを今から述べてみたいと思います。あなたの支部では大部分は問題にならないことでしょうが一つでも御参考になれば幸いです。

（1）祈り会は十時十分に始めること、そのためには神権会を十時にきっぱり終ってもらって下さい。又出席すべき人は日曜学校担当の支部長の兄弟、役員教師、祈りをする人、二分半の話手など日曜学校に参加するすべての人です。

順序は次のようにして下さい。

(1)開会の歌……一番だけで良いでしょう。

(2)プログラムのチェック及び発表…簡単に

(3)霊的な話……二分半、あるいは聖句朗読（一週間交替が良いと思う）

(4)祈り……長くならないよう。

(5)皆の時計を正しいのに合わせる。

この会はあくまで日曜学校が御霊の導きを受けるための祈りの会ですから余りゴタゴタしないよう、又いくら長くなっても十時二十分まで終って下さい、日曜学校の開会がおくれるのは祈り会の開会、閉会が遅れるのが一番大きな原因です。

（Ⅱ）日曜学校の雰囲気をこわす開会に間に合わない会員への対策を考えておりますか、その方法を幾つか述べてみましょう。

(1)まず開会は絶対に遅れないこと。

(2)度々開会行事の重要性を強調すること。（もちろん開会の時で話し閉会の時でも）

(3)いつもおくれる人には次のチラシを配って反省を促すこと……「もう○分早く起きて開会に参加して下さいませんか？」あるいは「時間厳守」という一つの長点を身につけましょう」　○はそのときに応じて書き入れる

(4)会長自身が開会の雰囲気を良好に保つことに協力してもらうよう個人的に注意する。

これらはすべてその人を傷つけないよう注意深く、柔かい表現で行われるべきである。

（Ⅲ）祈りをする人は次の事に気を付けるよう強調して下さい。

(1)司会者席に座ること……後ろの席から前の方へ出てくるのはまずいです。二分半の話手、指揮者も同じです。

(2)全会衆が聞えるように大きな声ではっきりと祈ること……ホールが大きくて声が透らないときはマイクを使うべきです。

(3)説教台の前で祈ること……そのために説教台のところには誰も座らないこと。

(4)「小さな」「まとまりのない」「ささやかな」「つまらない」などは不必要ですから使わないこと。

（Ⅳ）練習の歌に七分以上費さないで下さい

これは一ヵ月の間、練習するのですから余り時間をとらないこと。何かのように短めのがスマートです。

（Ⅴ）二分半の話をもっと立派なものにすること、これは残念ながら模範的なものにお目にかかったことはありません（標準とされるのは教会の雑誌「インプルーブメント・エラ」にいつも載るリャード・L・エバン長老の話）他の教会では牧師が説教する大切な場所を我々はあまりに粗末な話で済ませてはいないでしょうか。「こんな貧弱な話を聞くならもう教会へなど来たいと思わない」とまで言った友達もおります。割当を行う第一副会長は次のことを話の予定者に強調して下さい。

(1)三分以内に終ること（四百字詰原稿用紙二枚です、是非それまでとめること）

(2)準備をしなかった言いわけ、割当の機会を感謝するなどの前置きは不要です。

(3)(4)(5)……（Ⅲ）の(2)(3)(4)と同じ

(6)単なる世間話であってはならないこと。

(7)おもしろくて興味を引くような話題を提起して会衆の注意を呼ぶこと。

これは中学生、求道者がやっても良いのですから第一副会長は上手に割当を作って下さい。（予定表はホールの壁に貼れば効果的）又模範的な二分半の話がありましたら会長さんは私あてに（伝道本部気付）原稿を送って下さい。「聖徒の道」に載せたいからです。

（Ⅵ）クラス…日曜学校で最大の時間を費す大切なレッスンを一人で話をしている先生が多いです。次の週のレッスンも勉強してなるべく割当を頼み生徒と一緒に話したり聞いたりするなごやかな楽しいクラスであって欲しい。

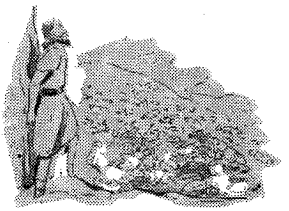
（Ⅶ）発表事項はなるべく短かく閉会の前にやりましょう。MIAの特別プログラムなどはチラシ、ポスター、黒板などを利用するのが口頭でするより効果的です。

1. リーハイの祈り
(第1ニーファイ1:6)

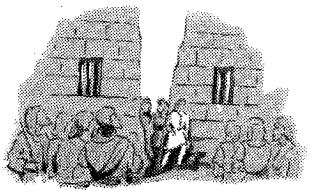
2. ヤコブの説教シェレム倒される
(ヤコブ7:15)

12. モロナイ、ニーファイ人の記録をまとめる
(モルモン8:3)

モルモン経典中の偉大な教師たち

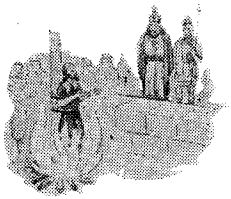


11. モルモン・ニーファイ人の全滅を見とどける
(モルモン6:15)

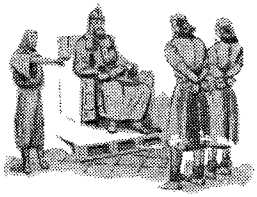


10. 三人の12使徒牢屋を破って出る（第3ニーファイ28:19）

9. 復活したキリスト12使徒を立てる
(第3ニーファイ11:19,41)



3. アビナダイの火あぶり
（モーサヤ17:13〜20）

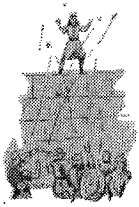


4. アルマ、アミユレク高等判事の前に引き立たせられる（アルマ14:4）

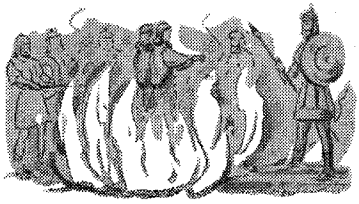
5. 聖徒となったレーマン人武器を捨てる
（アルマ24:17）

『お前たちが同胞のために務めるのは、ただ神のために務めるのであることを悟らせるためである。』(モーサヤ2:17)

6. レーマン人の母親、子に神の教えを聞かせる
（アルマ56:47,48）

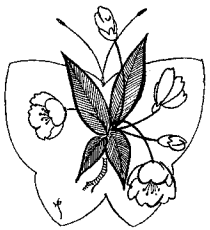


8. レーマン人、サムエル城壁で説教
（ヒラマン16:2）



7. ニーファイ、リーハイ火によって保償される
（ヒラマン5:23）

―ＭＩＡエンサイン―ローレル教科課程―



「あなたは　それを持つて行くことができる」

―10月5日―

「肩越しに見てもいいかい」

―10月12日―

「あなたは、それを持って行くことができる」

―十月五日―

問題点「私は、私が教会の会員であるということをどれだけ重んじようか。また私は、私が教育を受け、生計を営み、そして神の国を求めるとき、時間と利害関係の正しい釣合いをどのようにして確保しようか」。

テキスト「たとい人が全世界をもうけても、自分の命を損したら何の得になろうか。また、人はどんな代価を払って、その命を買い戻すことができようか」

（マタ伝第十六章二十六節）

その時立っていた人は、米国の偉大な工業家の一人であって、米国の実業団体の中で最も大きな十五の団体の一つの重役会の会長を退りぞく別れを惜しむ会場で、その名誉たたえる宴会の席上に於て答辞を述べていたのでありました。その背景となっているのはニューヨーク市の豪華なホテルであり、今彼の言葉に耳をそば立てているのは、実業界や政界の優れた人々でありました。彼の指導者たる功績と能力とに対する熱意をこめた賛辞を感謝する挨拶を彼が述べたとき、一同の人々は彼の口から知恵ある言葉を聞こうとして一人のこらず膝を乗り出して耳を傾けました。彼の言葉がクライマックスに達したとき一座はしんとなって静寂がその場を覆いました。彼は口を開いて言いました。「もし私がもう一度全部くり返すことができたなら、私は私の同胞である人類と有用な関係をもっているという感を私に与え、また心に平安を与えるよう、もっと精密に計算した針路をとるでありましょう」と。

多くの人々は、彼の偉大な成功の鍵をあらわす言葉を聞こうと前以て期待をしていました。また中には、彼の偉大な能力に挑戦する充分な利益をもった新しい無敵の物質帝国を企画するにちがいないと卒直に思っていた者もありました。彼の言葉は完全に武装解除を告げる言葉であったので、耳を傾けていた人たちは何と解釈してよいやら解りませんでした。彼の話が進むに従って、彼は自分の財政上の地位と損得の世界の知識とを最小に見積って言いました。「この度私は職を退りぞくに当って、自分というものを直視させられました。私はこれまでそうする勇気がなかったのです。私はますます孤独であることがわかります。私は私自身の道徳的成長に失望を感

じ、同情心の面でまた本当の物に対する責任の面でまことに見すぼらしいことがわかります。私は夜、床の上で目がさめると、私はこれから先の長い旅路に何をもって行かねばならないかしらと迷うのであります」と。

このような人を注意してながめる時間をもつのはよいことであります。この人は、多くの者のあこがれである道を歩いて頂上に昇ったのであります。この人は、成功というものが大部分財産、社会的勢力、人々の生活に及ぼす執行命令をもっていることによって計られる世界に於ける「第一等の品物」であったのです。それにもかかわらず、この人は得意な時に在ってさえも、創り主が私たちをこの地球上におきたもうた目的である「経験をして進歩発展すること」をしなかったために根本的な不満と失望とを感じたことを明らかにしました。

末日聖徒イエス・キリスト教会の会員は、予言者ジョセフ・スミスを通して世界に明らかにされた、目的のある満足な生活の完全な様式を、完全なる永遠の福音の形に於て受けとっております。その様式はひとりでに発見されるものでもなく、またそれを求める真面目な人々のすべてが本当の努力をしないで発見するものでもありません。それでありますから、若い人々に対して本当の疑問が提出されます。これを簡単に言えば「私の日常の仕事の背景をなしているものに対して、私の探求、すなわち永遠の真理を求める探求に私はどれほどの重さを置いたらよいか」ということです。この間の中には、私たちがこの地上の生活を営なむとき、私たちに与えられた神の道を理解するためにどれだけの時間と才能とを捧げるべきかを決定することが暗に含まれています。それには、新しい証拠を受け入れることを許す真面目な興味とすなを な心とをもっている態度が前提になっています。宗教以外に人間が努力しているいろいろな面に霊的の基礎が与えている香りや真の価値感によって、若い人々が人生行路のうちに宗教研究のねうちを真面目に考えるのは特に適切なことであります。

私たちの教会は、若い人々がこの問に直面するとき、彼らの心を鼓舞する言葉をもっております。それは教義と聖約第百三十章の第十八節から二十一節までに、わかり易く、また力強く言ってあります。

「およそ、われらのこの世に於て達する英智の一切は、何にてもよみがえりの時われらと共によみがえるべし。さればもしある人ありて、精励従順によりこの世に於て他の人よりも一層優れたる知識と英智とを得ば、未来の世に於てそれだけ利を得べし、そもそも創世の以前より天に於て定められたる一つの変らざる律法ありて、あらゆる祝福はこれに基くなり」

ここに、知識と英智の働らきの獲得について、一人一人が努力する目的に関する最も厳粛な宣言があります。簡単ではあるが栄光に満ちた表現で、この言葉は「永い旅路を」行く際に、私たちがもって行けるものが何であるかを語っております。しかし、この中にある「達する」とか「得る」とか「精励」とか「獲得」とかいう言葉の意味によく注意していただきたい。これらは行動を意味する言葉であって、一人一人が直接に努力をすることであり、他から与えられるものを受けとるという消極的な意味をもっておりません。これらの言葉は、何にてもあれ命ぜられたことを私たちが為すかどうかを見るために私たちを「試めす」という主の望みと一致しております。これらは人生を遇然の冒険ではなく一つの使命をもったものとします。これらは、人間は運命の気まぐれのまにまに浮沈する、遇

然にもてあそばれる生き物にすぎないという、度々提出される論を克服します。

実際にあてはめた場合に、正式の学業を修めつつある末日聖徒の若人たちにとって、このような真理はどんな意味をもっていますか。第一に、霊に関する事を考えるために充分な時間をとりのけておかなくてはならない、ということが明らかであります。次に、私たちは神の計画について知識を得るために、進んで才能のかぎりを尽さなくてはならないということであります。それは、半ばな方法では真理の理解もできなければ、学んで覚えたときに真理を通用するに必要な信仰をも生じないのが常であるからであります。身心共に発達して経験の範囲が急速に拡大している人生の或時期に際し、正にその時に、霊のための「飢餓食」が具えられるということが余りにも多いのは、本当に悲劇ではありませんか。弱い信仰は、宗教上の理想も科学の理論のように、実地の試験と批判的観察を必要とすることを指摘しない「観念業者」によって、往々無残にもうち砕かれます。しかしながら、意義のある試験と観察とを行う前に、事実と仮定とが見つけ出されなければならないし、試験と観察とを行う意味が何であるかを理解しなければならないし、また現在考えている問題の他の面にも関係させてみなくてはなりません。これは本当の研究と注意深い認知が必要であるということです。私たち教会の会員にとって、それは私たちが源泉となる資料と取り組むことを意味しています。私たち会員は、聖典を独りで研究する経験と、独りで鋭い思考をすることと、導きを得るために独りで主に祈ることと、真理を証ししたもう聖霊について言い現わすことのできない個人的の証拠をもつことが必要であります。

なお末日聖徒の若人たちに関係のあるもう一つのことは、世の中で彼らをとりまいている生活慣習のいろいろな例を考察するに当って、客観的の見地を維持するということであります。或る性向が抜くことのできない癖になることを見抜く力、人をわくわくさせる道が最後にどこへ行くかを知る洞察力、環境と個性とを考えに入れた真の価値感によって確立する、またその価値感によって導かれる意志――以上は、これらを持つ者に最大の進歩と満足とを与えるにちがいない特性であります。さて、これらの特性が集って精神的拘束を与えるものとなるようであると考えないために、失敗のあるところには喜びがなく、堕落するところに進歩がなく、混乱の中に心の平安がないことをもう一度言わせていただきたい。私たちは天にましまします父なる神の賢明な勧告を聞いて行うことにより、また永遠の目的に一致してその生活を整えた神の子らの模範によって利益を受けることにより、私たちの幸福と満足と成功とを増進することができるのであります。私たちは、最初から人の身も心も亡ぼすものであることがわかっているものを、自分の生活から根絶することにより、またこの地球上の生活ばかりでなく、後の世までつづく目標に向って私たちの勢力を集中することにより、私たちの失望と悲しみと失敗とを最小に止めることを確かに期待ができるのであります。

本当に「あなたはそれを持って行くことができます」。それとは何でありますか、それは宗教上の真理と個人の行為の基準とを求めるに当って得た知識と英智とにほかなりません。

青年時代に資本として投じた時間と努力とは、すべての時を通じて永遠に至るまでも、年々増すところの配当金を与えるにちがいありません。それは本当であります。私たちは

進んで行くときに、すべてはげましと援助とが要ります。またそれが教会組織の中にある活動の目的であります。教会と密接な関係を保つならば、私たちの経験に確認という非常に貴い要素が加わって、私たちの行いが正しい道にのっているという心からの確信がでてくるのであります。また私たちは、福音の教えに照らして生活の態度を一生けんめい正しくしている良い人々と交わることによっても利益を受けます。主は私たちが互いに力を与えることを知っておいでになりました。それで、主は私たちがしばしば集り合って知恵ある言葉を教え合うよう賢いはげましをお与えなさいました。社交活動のために若い人々をよせ集めるこれと同じ根本的の理由は、教会の中にある真の友情の呼びかけにも見られます。私たちはみな、活潑でしかも快活な会員をごく身近かの友人の中にもっています。私たちはただ「聞くだけの人たち」よりも、むしろ「実行する人たち」のまわりに集る傾向をもっています。私たちが教会のいろいろな面で活動をするときにもその通りであります。霊的の活動によって感謝をしまた利益を受ける人たちは、彼らの興味と努力とを制限する不自然な遠慮をせずに献身する人たちであります。

私たちは、教会の活動に活潑に参加することは私たちを「偏狭」にし、且つ私たちから行動の自由を制限するものであるという、私たちの若い仲間の人々があびせた批難を知らずに、教会内の活動に活潑に参加するという問題を提出することはできません。高等学校の一年生の一人は「僕らはみなあまり教会に近づくことをいやがっているよ。僕らは本気で教会の活動をするには時と場合があることを認めているが、それは青年の時代にはない。僕らは完全な自由を以て行いを選ぶ権利を保有したい。そして教会の推薦する非常に多くの規則で束縛されたくない。これは僕らの意志である」と言いました。このような物の見方は、私たちの教会の青年の大部分の特性ではけっしてありませんが、それにもかかわらず、これが誤った考えであることを知るために徹底的に考えねばならないものであります。

ニューイングランドの或る裁判所の上に「法律に服従することこそ真の自由である」という字が彫り込んであります。ちょっとみると、これは理屈に合わない言のように思えます。何気なく読んだだけでは、法律こそわれわれの活動と自由をしばるものではないかという思いがしますが、充分反省をしてみると、法律がなかったなら、また宇宙の法律である秩序がなかったなら、個人の自由は全くないことがわかります。人間は個人の判断に従って選び且つ行動する能力のある者ではなくて、むしろ「他の力に従って」行動するだけの者になってしまいます。私たちの自由も、また他人の自由も、私たちが法律、すなわち人間の造った法律でも神の下したもうた律法でも、破った瞬間になくなってしまいます。それで、真の自由というものは、私たちが根本の法則を知っているところから、またこれらの法則に照らして生活をするところから出てくるのであります。そこで、あの高等学校の学生に答えて言いますと、彼が反抗をしている「教会の規則」こそ、実に彼の真の自由を守るところのものであります。これらの規則によって左右され指揮を受けることは、私たちの選択と決定の権利を保存することであります。法律を侮どった囚人に、今どのような自由があるか聞いてごらんなさい。道徳に関する主の大きな律法を侮どった人に、いわゆる「規則」の果実である自由の中にどんな大きななぐさめがあるか聞いてごら

んなさい。

青年たちの前に、多くの証人の列が果てしもなくならんでいます。これらの人々は物こそ言わないが、力強く、まだ若いうちに主のみわざを行うことこそ賢明であることを指しています。

「たとい人が全世界をもうけても、自分の命を損したら何の得になろうか」。

自分の生涯を回顧するに当り、「これからの長い旅路」を前にして物質以上の多くのものをねがわずには居られなかったあの工業家のことを思い出して、私たちはまだ若いうちに「私たちが持って行ける」ものに当然の尊敬をはらって、聡明に専心しようではありませんか。

「教授の手助け」

一、レッスンの目的

生徒たちが豊かに永遠の酬いを得るために、この世の生活の中でもっていなければならない種々の目標について、今はっきりした決定を下すことの必要を悟ることに援助を与える。

二、教授の方法（提案）

(イ)レッスンを始める前に聖句を読んで討論を行う。

(ロ)今、職を退りぞこうとしている実業家の話を読むか話すかして、生徒たちにこの人があのように感じたのは当然であると思う理由を言わせる。

三、生徒たちの参加に対する提案。

(イ)人間が肉体の欲をたえずみたして居ても死んだ時には何も持って行くものがないのは何故か。

(ロ)人間が死ぬときに持って行けるようすべての人が楽しみにして待つべきものは何であるか。

(ハ)「法律に服従することこそ真の自由である」という言葉を論ぜよ。

(ニ)人が感じるままに行動することが、結果をかえりみずに不充分な生き方をするのに似ている理由を言え。

四、生徒たちの応用に対する提案。

(イ)教義と聖約の百三十章第十八節から二十節までの聖句を完全に理解することが、学校へ通っている若い人たちにどんな助けとなるか。

(ロ)若い人たちは教育を受けているときに、どのようにして「悪の飢餓食」を避けることができるか。

(ハ)教会から離れている人々にくらべて、教会で活潑に働いている人々はその生活にどんな為になる影響を蒙っているか。これはその人々の幸福と学校での成績と、専門の職業につくことと、結婚の相手を選ぶことと、子供たちを育て上げることとに大きな関係がある。

（来週エンサインとローレルは一しょに集ります）

「肩越しに見てもいいかい」

——十月十二日——

問題点「人間は生命の大きな流れの一部である。人間はその流れの中に在って、善悪を選びとる力を内にもっている。そして、人間が生きて行く生き方は人間に命を与えた者にとっても、また人間が命を与える者にとっても等しく重要なことである」

テキスト「見よ、主の大いなる恐るべき日が来る前に、わたしは予言者エリヤをあなたがたにつかわす。彼は父の心をその子供たちに向けさせ、子供たちの心をその父に向けさせる。これはわたしが来て、のろいをもってこの国を撃つことのないようにするためである」（マラキ書四〇五—六）。

あなたはもしも今から百年先きを見る機会がもらえるとしたら、何をその代りに与えようとしますか。今考えてみるために、あなたにはその特権が許されるが、自分の選ぶ三つの光景にかぎって見ることができると仮定しましょう。百年先きが見えるとしたら、どんな三つのことを見たいとねがいますか。その遠い将来に於て私たちの新しい環境がどうなっていようと、私たちすべては私たち自身がどうなっているか見たいと思うということは確かでありましょう。これまで百年の間に起った人間の生活様式の非常な変り方と、私たち日常の生活に非常な影響を及ぼしているいろいろな機械の発明とを振り返ってみるときに、百年先きの将来にこの地球の上にある生活を一目みたいというねがいを私たちに起させるでありましょう。この光景を心の中に考えているときにさえ、私たちは疑いもなく第三が何であるか知りたいと思い始めるでありましょう。そして、私たちの期待は、結局私たちの見たいと思う或るとくべつな事と或るとくべつな人々に帰着するでありましょう。そこで或る人々と言うと、私たちはどの人々にぜひ会いたいと最も切望しているでしょうか。さだめし、この興味ある最後の質問に対する答えは必然的に「私自身の人々、すなわち私の子孫」でありましょう。

今この思考の糸をもう少し先までたぐってみましょう。実際上、あなたは自分自身、子孫をながめる「先祖」の役割についたのでありますから、もしも自分の子孫に向って声なき声で「肩越しに見てもいいかい」と言うことができるなら、あなた自身の子孫の生活について何を一番興味深く感ずるでしょうか。あなた自身の子孫の生活様式は、その生活に必要な物と同じくあなたの興味をそそるにちがいありません。しかし、それよりもあなたは多分、彼らがどのような人になったか批評的の目でながめ始めることでしょう。彼らのもっている物質的財産に対するあなたの興味はうすくなります。彼らが日々やっている仕事はあなたを驚嘆させないで、あなたは多分彼らの性格と有益な人であるかどうかを調べている自分に気がつくでありましょう。あなたは、ふと「私が彼らにわたしてやったものをどうしただろうか」と疑がってみるかも知れません。ここで現実に立ち返って私たち自身を眺めてみるのは良いことです。まだ私たちはこの地球上に生きて居り、私たちは現在、自身の生活の設計をして居り、生活を築いて居ります。本当に、私たちはこれから先に生れてくる私たちの子孫に、どんな価値のあるものをわたすでありましょうか。

「先祖から受けつぐ財産」という言葉は、末日聖徒の集りで度々耳にする言葉であります。これはまた二分半の話でよく取あつかわれるので、教会の若い人たちが早くから覚える言葉の一つでもあります。問題は、私たちがこの言葉の深い意味が本当にわかっているかということであります。筆者はある時、開拓者であった曾祖父の遺骸が眠っているはずの墓の在り場所を大平原で探していたとき、この問題をつくづく考えさせられました。この貴い心をもった曾祖父は、その故国である英国で、回復されたイエス・キリストの福音を信じて受け入れましたので、彼の人生の針路とそれから後の彼の子孫のとった人生の針路とは、この勇敢な選択によって非常に深い影響を受けました。この曾祖父は、教会の初期の歴史に明らかな、悩み多いノーヴーの時代を生き抜き、千八百四十六年の冬にイリノイから悲劇的の脱出をしたときポンカインディャンの中で冬を越しました。彼は大ソルトレークの平原に到着して間もなく、故国である英国へ二回宣教師となって行きました。彼

が改宗者の移民隊の先頭に立って来たとき、激流を渡ろうとしていた南北戦争の兵と出くわしたのは、彼が最後の宣教師生活を終わってソルトレークへ帰る途中であったのです。この兵士の隊長は、その移民隊がモルモンであることを知って彼らの指導者に会見を要求しました。私の先祖の曾祖父がぶかっこうな服のまま進み出たところ、隊長は、移民隊は流れをこすのに橋を使ってはならぬとだしぬけに言いました。彼らは流れを歩いてわたらなければならない、さもなければ川を越してはならないと。私の曾祖父はこれに抗議をしましたが「一歩でも橋の方へ行ってみろ、お前を引き裂いてやるぞ。うむ、たとえイエス・キリストだろうが容赦せぬぞ」と一喝されました。モルモンの人たちはさし向けられた銃口を前にして、氷のような流れを歩いてわたるほかはありませんでした。このようにして、不時に寒気にさらされたことと水にぬれたことによって、数日後に彼は生命を落しました。そしてその遺骸は、砂地の丘のふもとに堀った墓の中へ、露営のかがり火の光をたよりにおろされました。遺骸の眠る棺は馬車の側面からとった板で、目印しばらばらの板をぐるぐる結んだ馬車の輪金でありました。

私は、私の曾祖父の生涯の原動力となった諸原則の力によって私の興味をかき立てられたとき、私はほとんど百年の才月が経った今、どのように曾祖父から評価を受けるかしらと考ざえるを得ませんでした。私はその際、もし私が曾祖父に会ったなら、それは大へんな経験だろうということを考えて深い感銘に打たれました。そして、私は全く新しい考えで、私の先祖に関聯して私自身のことを考え始めました。私の心に感銘を与えると、これまで確認しなかった親密な関係と、血族関係の神聖な感じとがはっきりしました。私は、子孫が見習う価値のある偉大な業蹟をのこした、私の気高い先祖の一人一人の生活の特色となっている有力な話題を認めました。それはいつも同じ部分から成っている話題でありました。それは一つ一つの場合に、生活に深い意味を与える真理と永遠の原則との探求から始まり、次に真理と出逢うこと、真理に出逢ったために起る誤ちと無知とに対する争闘がつずき、それから——ここで私は私の先祖の偉大な忍耐と不動の態度との源がわかるのですが——私の先祖は断乎知りつつ真理を選びとるのでありました。彼らは真理に味方してはっきりと決意しました。彼らは文字通り新しい光を受け入れ、固くこれを把握しました。何故なら、彼らは暗黒の中から出て光を受け、真理と誤りとの間にある本当に重大なちがいを親しく経験して知ったからであります。彼らの生涯は、真理が彼らの指導力になったときに大へんな修整をしなくてはならなかったことを証ししています。個人的の便宜をすてて、天の啓示による原則を選ぶとき、いつでも家庭、家族、財産、個人の安全などがぎせいになりました。

これらのぎせい——私たちはそう言うけれども先祖はそうは言いません——は、いつもそのぎせいを払った人々に最後の勝利をもたらしました。それは必らずしも世間で言う勝利ではありませんでしたが、もしも究極に於て生命が価値あり満足なものであるなら、日の光栄の国に住む者として一つの場所を与えられるにちがいない天の王国に入る勝利を得たのであります。

何代も前の先祖の中には、此世で物質的に貧しい生活を送って死んだ人々もありますが、彼らはその子孫に王者の富も及ばないすばらしいものをのこしました。それは心の平安を得るための処方であります。それは人の

事について恐れを知らない信仰であります。それは永遠の進歩を得るために必要な努力を与えられる霊感であります。それは主イエス・キリスト御自身が与えられた生活の計画であります。

そこで私たちが「先祖から受けつぐ財産」について語るとき、私たちは真理を感知するという最も肝心な遺産のことを言っているのであります。私たちは、良心的な祈りの心でする研究に基づいて健全な結論に達するに必要な意志の力のことを言っているのであります。「先祖から受けつぐ財産」の中に大ていの末日聖徒は、義なる愛の神と御父とがすべてを支配したもうみこころを固く信ずる信仰を伴って、真理のためには喜こんで意味のあるぎせいを払うということを含めて居ります。

悠久なる過去と未来とを望み見るとき、私たちは現在という時の焦点に立っていることがわかります。何代も前の過去に為された希望は、今私たちの上にかかって居ります。何代も前の先祖が私たちに与えたものを私たちが正しく処理することによって、先祖たちが生命をかけた大きな夢が大部分現実になるにちがいありません。真の意味に於て、戦の形勢は私たちが握っております。私たちの中には、人生に於ける私たちの真の役割を理解せずに、平々凡々なところに身を置く者もあるでしょう。このように低く身を落す人々は、過去に於てこの世を去った先祖の人たちの生命から受けただけの光を出さずに過ごして行くにちがいありません。時が経過し良い業が減少して行くと共に、いつの日か光が全く消えて霊の暗黒が支配するようになるにちがいありません。このような人からは、まだ生れないこれから先の子孫たちを照らす指導のかがり火も、良い模範も出てきません。このような人々の子孫は、立ち上って彼らを祝福された者とは呼ばないでありましょう。将来とばりが彼らの目から取り去られ、先祖と子孫とが交じって過去の生活の評価をするときに、彼らは良心の苛責と後悔の罰を受けるのであります。

しかしながら、まだ年若いときに、過去の意味と未来の約束とをはっきり心に浮べることのできる人々はどうでしょうか。永遠の先まで真相を見通して日々を生活する若い人々はどうでしょうか。この時貴い「先祖から受けつぐ財産」の価値が日々の生活のうちに感じられるのであります。このような理解をもっている人には、自分が永遠の大計画に属していること、或る関係をもっていることが感覚されるのであります。その人の判断は、長い先を目標にしているので一層健全となり、瞬間の欲望によってたやすく動かされることはありません。神によって平安がつくられ、その後対人関係は前よりも非常に単純になります。真の標準によって人生の針路がきまり、過去の意味と未来の知識を完全に悟ることによって、親切な光明が岸から岸へと安全な航海を確保してくれます。

それで、自分自身が何者であるかを思い越し、また自分自身が今何をしているかを思い起すなら、それは大きな祝福であります。そのあとには、現実のきびしさを逃れようとする一時の逃避策を求めるよりは、むしろ人生のあらゆる挑戦に立ち向って最善を尽そうとするねがいが湧いてきます。間もなく私たちは、真の成長は責任を進んで引き受けることによってあらわれることを知ります。私たちの一人一人は、過去に於ける私たちの親戚の人々の大きな期待にそう責任をもっております。過去は私たちと共に在って、最初から破ることのできない鎖によって相伝された生命の火花の中に保存されているからであります

無限の未来から、私たちにはっきりとした呼び声が聞こえます。未来の子孫が「先祖から受けつぐ財産」を非常に貴いねうちのある物として尊び重んずるために、また人間の身も霊も完成されることを求めてなお一層高く昇り行くよう霊感を受けるために、毎日出来るだけ立派な生活をせよと。

「教授の手助け」

一、レッスンの目的。

もしも生徒たちがその子孫に対して良い影響を与え、また子孫に対して価値のある世界をのこそうとするなら、生活の中で明確な見通しを持たなくてはならないという考えを、生徒たちのために明らかにすること。これは私たちが今住む特権を与えられているすばらしい世界の返礼として、すべての人が払わねばならない代価である。

二、教授の方法（提案）

(イ)レッスンの前に聖句を読んで論ぜよ。

(ロ)開拓者である先祖が、今私たちのもっているいろいろの機会や生活を楽にするもののために払ったぎせいを示すために、その開拓者の経験を話すことのできるクラスのメンバー、または誰かにその話をしてもらう。

(ハ)開拓者たちが生活して仕事をしたいろいろの状態を説明する絵をもってくること。

三、生徒たちの参加に対する提案。

(イ)クラスの生徒は、現代の人々が将来の子孫のことをよく考えているとどれほど信じているか。また現代の人々の行いや言葉をどれほど信じているか。

(ロ)私たちの先祖が、シオンを築く企てをゆるめるよりはむしろ生命をすてた方がよいと決意したのは何によるか。

(ハ)あなたがこれまで何にも貢献していない過去の先祖から直接引きついだ財産であるあなたたちの生活のあらゆる面を列挙せよ。

(ニ)もしもこのままつずけて発達させたなら将来の子孫に対して非常に有害な影響を与える、現代社会の特色である考え、活動もしくは影響は何か。

四、生徒たちの応用に対する提案。

(イ)どれほど将来の子孫に関心を寄せているか、生徒たちに簡単に述べさせよ。彼らの孫に対して現在どんなことを良心的にしていなければならないか。

(ロ)神殿結婚はどのように人の各世代を結び合わせるか。

(ハ)人間は何者であってどこへ行きつつあるかという知識は、将来を築くためどんな役に立つか。（来週エンサインとローレルは別々に集ります）

MIA リーダー

Greetings

Joseph T. Bentley
G. Carlos Smith Jr.
Marvin J. Ashton

Bertha S. Reeder
Emily H. Bennett
LaRue C. Longden

GENERAL SUPERINTENDENCY YMMIA

GENERALE PRESIDENCY YWMIA

「今年度の新しい MIA指導者の為に」

〝MIAとは何を意味するか〟

MIAとは……相互発達協会（Mutual Improvemt Association）の略である。MIAは主の予言者なるブリガムヤングによって初めて組織設立された。ヤング大管長は次のように言っている。「我々は諸君らが相互発達のため、組織して協会をつくるよう要請する。諸君の働きを通じてこの偉大なる末日の働きの真理なること、大いなることの個人的証詞を青年の心の中に確立し、彼ら青年に神の僕たちの按手によって与えられている賜物を発達せしめ、かつ人生という一大科学の有する永遠の原則を知らしめて、これを応用せしめよ。」

MIAとは……相互の発達のために協力して働く青年男子（YMMIA）と青年女子（YWMIA）のための組織である。

MIAとは……教会の神権組織に対す補助組織であり〟……強い、忠実な、信仰あつい末日聖徒を育成するための教会とその使命に援助を与える組織である。

MIAとは……青年男女が主から与えられている才能を互いの協力と練磨によって発達せしめ、健全な社会生活を営む者となるように団体の精神を培うための組織である。

最後に主は我々に次のようにおうせられた「こはわが業にしてわが栄光、人に不死不滅と永遠の生命とをもたらすなり」。これを覚えよう。

会員数が充分であるならば、支部のMIAは完全に組織されるべきである。（最後の頁の表に従って）

MIAの全役員および教師は適切なる方法によって支部会員の支持を受け神権者によって任命されるはずである。神権の召しに従いMIAで奉仕することは、聖なる特権であるこのようにして召され、任命された人は謙遜と献身的な行動とにより、支部長会の役員より適切に解任を受けるまで、その召しを忠実に果すべきである。

名誉会長や名誉役員があってはならない。すべての役員、教師は主の僕であり、そこに集う人々の僕として働くべきであり、MIAの会長であるからと言って回転椅子に腰をおろしているようなことであってはならない。役員教師は、まず、そっせんして行動を起こさなければならない。あなたがこの一年間完全な指導者であるように努力されんことを祈る。

「エンサインローレル クラスリーダーのために」

我々は効果的な教授法を使って奉仕する一寸の間私たちと一緒に考えましょう。

あなた方は次の事がらを知っていますか。

一、真の先生とは充分な知識を持ち、必要が生じた場合にはいかに早くこの知識を増やせるかを知っている人である。この知識が広汎であるのはもちろん大切であるか、これがより機能的―換言すれば今日のローレルたちの興味と必要に直結したものであることの方が大切である。

二、卓越せる指導者たちによって書かれた「我々は奉仕する」のレッスンを学んだ後では、私たち若い人々は主の在す教会と奉仕の価値と喜びの概念をはっきりとさせておくべきである。右の文章は教師たちにいかなる問題を投げかけているか。次の質問に自分自身で答えてみなさい。

A良い教授法とは何か。

B私はいかに自分のレッスンを準備したら良いのだろうか。

C私は自分のレッスンをいかに変化に富んだ

ものに出来るか。

D私は若い人たちをいかにクラスに参加させられるか。

Eどんな教材が手助けになるのに有効であるか。

Fローレルたちは彼らの指導者たちから何を求めようとしているか。

あなたたち（教師たち）の仕事は重要である。真の指導者としての力はレッスンの教材を成功し得るよう使うことを通して発揮される。従って、

周到な準備は全てに優先する。

レッスンの構造と計画には次の基本的な段階がある事を考えなさい。

第一段階　ローレル達に必要とする範囲内でレッスンの目的―（焦点或いはポイント）を選択する。

第二段階　抽象的準備―四つの点、即ち(1)考える事、(2)読む事、(3)観察、(4)対話と聴くことの過程がある。

第三段階　具体的準備―不必要な煩雑さを避けよ。あまりにも詳細な地図はむしろ混乱させ勝ちである。主要な事をはっきりさせる為にはほんの二三詳しく述べられた基本だけを先ずもって保持しなさい。

第四段階　実践―教えようとする主題をまとめる際に、大勢が考えている要旨をしっかり把握する。そして興味のある方法で物事を提出する。

第五段階　レッスンの応用　学ぶことは外部からのものでなく内部（自分自身）から得られるものである。学ぶ人はそれを受ける為には与えなければならない。レッスンはクラスの助けある貢献を得るよう解放的なものでなければならない。私たちは教師からばかりでなく、お互いからも学んでいるのである。もう一度。

あなた方はあなた方のレッスンを注意深く練られたプランから準備しております。

十月廿六日「ハロウィーン・パーティ」

（全役員教師はこの催しの準備と開催に協力すべきである）

第一、我々は、この計画が成功するように良く準備して、いくつかの委員会を組織しましょう。（すなわち、宣伝委員会・企画委員会・装飾委員会・会場整備委員会etc）

第二、MIAのすべての会員に連絡してこの面白い催しに招待しましょう。

第三、ハロウィーンと言うことを良く知らない人たちに会の説明をしましょう。その折り皆が仮装をこらすようにお願いしましょう。（七月の聖徒の道、MIAリーダーの所の標準を遵守するように役員は説明を加えて下さい。）

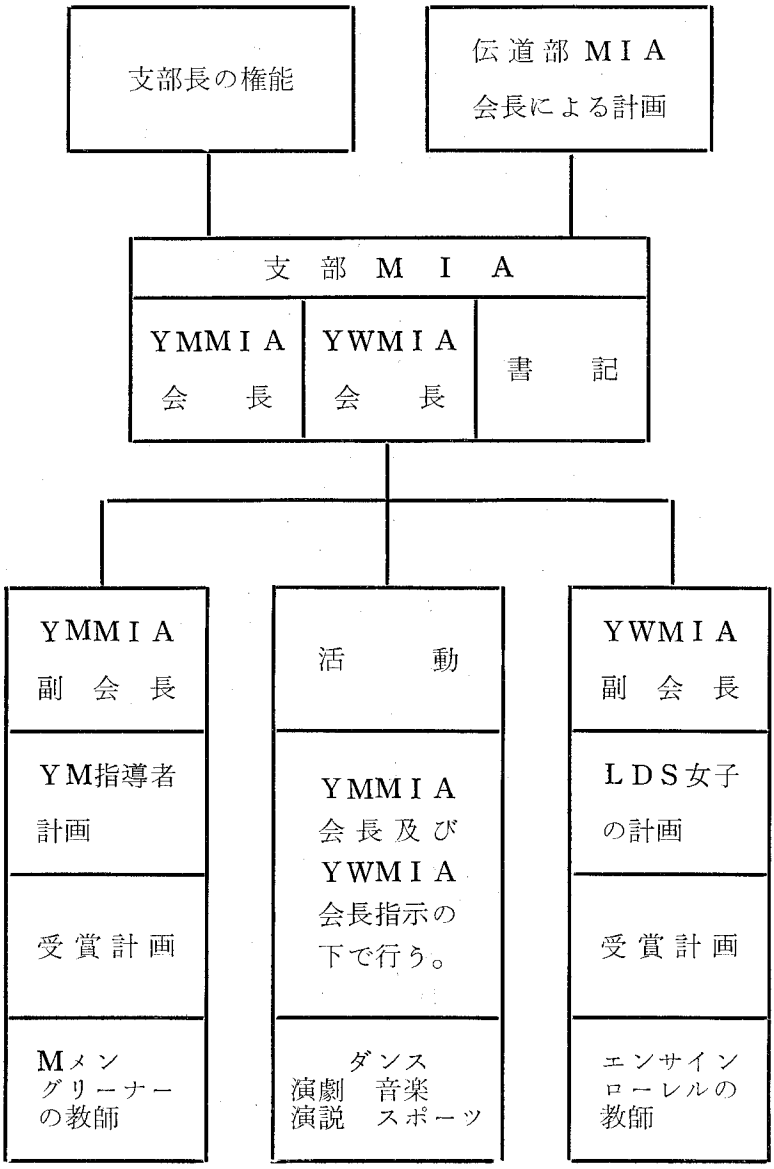
第四、宣伝委員会は早目にポスターをはって支部内の人に日時、場所を知らせること。

第五、装飾委員会は、工夫をこらして面白いものを作りましょう。例えば、トウモロコシの毛や、カボチャのちようちん黒猫やこうもりのシルエット・ほうきに乗って飛ぶ老婆・小人や種々のオバケたちを厚紙で切りぬき色をぬってあちこちにつるして、ふんいきを作りましょう。

第六、軽飲食物を出しても良い。

第七、ゲームや、ダンスまた全員で楽しい歌を歌ったり、役員および委員会の全員で計画を作りましょう。

日本においては（特に地方においては）あまりなじみのないお祭りですが、この教会においては、かなり前からMIAの計画の中に入れられております。アメリカのお祭りですので各地にあって支部内の宣教師の方々に、アメリカにおけるハロウィーン・パーティの様子を聞くと参考になると思います。（しかしあくまでもMIAの標準を守って下さい）


支部長の権能
伝道部MIA
会長による計画
支部MIA
YMMIA
会長
YWMIA
会長
書記
YMMIA
副会長
YM指導者
計画
受賞計画
Mメン
グリーナー
の教師
活動
YMMIA
会長及び
YWMIA
会長指示の
下で行う。
ダンス
演劇 音楽
演説 スポーツ
YWMIA
副会長
LDS女子
の計画
受賞計画
エンサイン
ローレルの
教師

末日聖徒イエス・キリスト教会歴史粋

ジョセフ・フィールディング・スミス著

21

第二部　時満ちたる神権時代の開始

第十三章　教会公けの伝道開始

（千八百三十年）

十一、弁護士たちの受けた霊感。　あの裁判が行われた時、当時教会の会員ではなかった数人の弁護士が予言者の弁護に当ったが、その霊感に充ちた弁論はこれを聞いた敵の者どもをふるえ上がらせた。その弁論がきわめて力強かったので法廷に集った多数の人々はその心を貫かれる思いがした。さきに非常に悪かった警官は自ら進み出て、自分がジョセフを虐待したことと無礼なふるまいをしたこととをあやまり、その上暴徒たちが今予言者にタールを塗って鳥の羽をくっつけ、横木の上にのせてかつぎ出す用意をしていることをうち明けた。この警官の助けにより、ジョセフは脱出して安全に自分の姉の家に向うことができ、そこで自分を持っている妻に会うことができたのである。

十二、暴徒たちジョセフとオリヴァとを脅迫する。　それから数日たってジョセフ・スミスとオリヴァ・カウドリの二人は、さきにジョセフが捕われたとき強制的に立ち去らせられた人々の確認式を行うためにコーレスヴィルへ帰って行った。二人が居ることを知って暴徒たちはまた集合し始めた。彼らの動きはきわめて卑劣であったから、ジョセフとオリヴァとは腹ごしらえをする間もなく町を離れた。敵は二人のあとを追ってきたが、二人はきわめて深い注意をはらって無事に逃げおおせることができた。僅かに一度休んで交代で見張りをしながら眠りをとっただけで一

晩中歩きつづけて二人は帰ってきた。あくる日家へ着いたが足は痛むし体はすっかり疲れていた。

このように断乎とした形をとった反対の精神は、宗教を口にする者たちの煽動による結果であった。シャラー牧師、マクマスター牧師、ボイントン博士およびベントン氏という人、これらは長老教会の重鎮であったが暴徒らをそそのかして迫害を行なわせた。ベントンはジョセフをモルモン経を説く「公安妨害犯人」として捕える最初の逮捕状に署名した当の本人であった。このようにしてサタンは人々の心をかき立てて苦しめなやまし神の御業をくつがえそうとしたのであった。

十三、サムエル・H・スミスの伝道旅行。 千八百三十年六月、サムエル・H・スミスは予言者によって特に按手聖任され、東方へ向けて伝道旅行に出た。これを指して当教会が行った最初の伝道旅行と言うことができよう。サムエルは数冊のモルモン経を携えて旅立った。第一日に彼は十五マイル旅をして、途中何冊かのモルモン経を売ろうとしたが一冊も売れなかった。その日も暮れかけたとき、彼は空き腹をかかえ弱り切って或る宿屋を訪ねた。

そして宿屋のあるじに近づいて、インディヤンの歴史が書いてある本を買いたくはないかと聞いた。するとその男は「どうしてお前がその本を手に入れたかわしには解らんよ」と答えた。「これは私の兄が或る金版から飜訳したんです。兄はそれが土の中に埋めてあるのを見つけたんです」とサムエルが言うと、亭主は「このうそつきめ、さっさと出てけ。その本をもってちょっとでも居たら承知せんぞ」と言った。

サムエルはこれを聞いてがっかりしたが、そのまま旅をつづけ、その夜は一本のリンゴの木の下で眠った。朝になって彼はメソジスト派の牧師ジョン・P・グリーン師の宅を訪れたグリーン師はその時ちょうど説教旅行に出かけるところであったので、今までサムエルが近づいた人たちと同様その本には少しも興味がなかった。しかし、この牧師は親切な心持ちを示してサムエルの切なねがいを聞き、申込用紙をとってその本を何冊か売ってみることに同意した。そこでサムエルは約二週間後にまた訪問させてもらうことにして、その日はモルモン経を一冊置いてそこを辞去した。約束した日にサムエルが再びその家を訪ねてみると、彼はモルモン経が売れていないことを知って大いに失望した。サムエルはグリーン師の宅を訪ねる途中、再びあの宿屋の前を通りすぎたが、その宿屋の戸口には「天然痘」の張り紙がしてあった。サムエルが聞き合せてみると、あの宿屋の主人が天然痘にかかって死んだということが解った。サムエルは伝道の働らきを終えて家へ帰ってきたが、彼の働らきは結局何の成果もなかったと思っていた。

ところが、サムエルがのこして行ったモルモン経をグリーン師もその妻もぜひ読みたいというよりはむしろ何が書いてあるか知らんという好奇心から読んでみて非常な感銘を受けた。サムエルがジョン・P・グリーン師のところに置いて行ったモルモン経は後にヤング家の家族の手にわたったが、これがヒーバー・C・キンボールを含めてブリガム・ヤングとその兄弟たちおよびブリガム・ヤングの友人たちが福音の回復を直接に知った最初であった。

十四、ジョセフ・スミス（初代）ポッダムを訪れる。

このころジョセフ・スミス（初代）とその末の息子ドン・カルロスとはニューヨーク州ポッダムへ向けてサムエルと同じく伝道旅行に出かけた。このポッダムはジョセフ・スミス（初代）の父のアサエル・スミスとその数人の子たちが住んでいたところであった。初代ジョセフの伝道旅行は息子のサムエルの伝道旅行が一見失敗したのにくらべてむしろ成功を収めた。というのは、彼の父のアサエルが永遠の福音を受け入れ、その息子の大部分も同様に永遠の福音を受け入れたからである。しかし、アサエルの長男ジェスはその兄弟ジョセフの伝える言葉を受け入れず一生涯福音に対して痛烈に嫌悪の心持ちをあらわしつづけた。

十五、モーセの書啓示される。 千八百三十年の夏の間に主は当教会に多くの重要な啓示を下したもうた。六月に、予言者ジョセフは主がモーセに告げたもうた言葉を啓示された。これはモーセが或る高い山の上に連れて行かれた時の主の御言葉であって、モーセはそこで主と顔と顔と相対して語った。この啓示には後から更に「モーセの著」が増し加えられたが何れも「高価なる真珠」にのっている。この啓示によって伝えられた重要な知識をいくつか挙げると次の如くである。すなわち、主の御業には限りがない。何人も御父の栄光に与ることなしには御父の御業をすべて見ることはできない。またその栄光はこの世の肉身をもっているうちは受けることができない。モーセは神の独り子と生き写しにもしくは全く同じに創られた。多くの世代の人間が彼の目の前を過ぎて行った。彼は最初から最後まで見たがこれは霊眼を以て見たのである。それというのは、肉眼では主の栄光を見奉つることができないからである。この示現が終ってからモーセは独りのこされたが数時間たって始めて元の力をとり戻した。それからサタンがやってきてモーセを誘惑し彼を礼拝せよと言ったが、モーセは「汝は誰なりや。見よ、われは神の独り子の生き写しなる一人の神の子なり。われ汝を礼拝すべきその栄光いずこにありや。見よ、われは神の栄光わが身に及び、御前に於て力を添えらるるにあらざれば神を拝し奉るを得ざりしに、われは汝を肉身のままで見るを得」と言い、さらに「われは神を呼ぶことを止めじ、われは神に尋ぬる他のことあり、神の栄光わが身の上に下りたまいたれば、この故

にわれ神と汝を区別するを得。サタンよ、退け」と言った。モーセがこう言ったときサタンは大声で叫び我は神の独り子なりと言った。そこでモーセは非常におそれたが主を呼ぶことを止めなかった。そして示現が開けて地獄の惨苦を見たが力を与えられて再びサタンを責めると、サタンはふるえながら歯がみをし、モーモから去って行った。モーセは以上のことをすべて誌したが、人間の邪悪のためこれらの記録は人間の中になかった。

十六、主の御業と栄光。　この苦しい場面があってから、主はイスラエルの民を束縛から解き放つ任務を受けたモーセと再び語りたもうた。この時モーセの眼は開けて、多くの地とその上に住む数え切れぬほどの多くの人々とを見た。主は多くの天と、今われわれの立っていると同様の地とがあることをモーセに教えて説き明したもうた。これは人にとって数限りなく多いけれども、主はこれらのすべてを知りたまい、主にとっては数えられている。これらの地にはすべて神の子らが住んでいる。それは、神の御業と栄光とが人に不死不滅と永遠の生命とをもたらすはずであるからである。従って一つの世界とそれに属く天が創造の目的を満して過ぎ行くときには別の世界があらわれる。御父の御業と言には終りがない。この中に永遠の進歩があるからである。しかしながら、主の知恵の中にあるわれわれの知識は必然われわれの住むこの世に限られている。

十七、その他の重要な啓示。　この古代の聖典にのっている知識を知って教会の兄弟たちの心は喜びにおどった。主は彼らの受けることができるままに、ここにも少しくかしこにも少しく続いて注ぎ与えたもうた。千八百三十年七月の始め、ペンシルベニヤ州ハーモニーで今一つの啓示がジョセフ・スミスとオリヴァ・カウドリに下った。二人はコーレスヴィル、マンチェスターおよびフェイヤットに居る聖徒たちのもとへ帰れ、そうすれば会員たちは二人を支持するにちがいないとの命を受けた。二人は聖典を説き明し、シオンを築き上げるためもっぱら時間を捧げなければならない。二人がこれらの働らきをするに当り、もしも会員たちが支持しないなら主はその祝福をとり去りたもうにちがいない。「苦しみを忍べ。汝は数多の苦しみを受くべければなり。されど、これに耐えよ。見よ、われ汝と共に在ればなり。誠に、われ生涯汝と共に在らん」と。

その苦悩は果して来た。スミスは僅かの人しか経験しなかったような苦しみを受けることを要求された。彼はその天職を怠らず勤めるはずであった。それは主が俗世の働らきについて彼に力を与えたまわないので、彼は俗世のことに力がないにちがいないからであった。

オリヴァ・カウドリもまた導きと教えを施こす働らきを続けよ、ただし神の御業について充分に語り得ると想うべからず、されどもし彼が忠実であるならば主は彼の口を開

きたもうて、彼は人の中に知られないほどの力を与えられるにちがいないという命を受けた。この約束は実現した。それはオリヴァが教えを説くときに彼の声を耳にする人々が皆ふるえおののいたほど、主はオリヴァを恵みたもうたからである。祝福する権能やのろいを与える権能が二人に与えられた。この二人を迎える者たちには祝福を与え、二人を受け入れない者たちには祝福を与えず二人の足を彼らに対して洗い、以て証しとするはずであった。もし何人たりとも二人に手荒なことをするならば、二人はその者に打たれよと言え、そうすれば主は時到って必らずその者を打ちたもうにちがいない。また二人は「最後に」大いなるはさみを以て主の葡萄園の刈り込みをするため出て行くときには、財布も旅の嚢も二枚の上衣も携えてはならないのであった。

十八、エマ・スミス讃美歌を選ぶこと。　これと同じ月、すなわち千八百三十年七月に主はジョセフ・スミスの妻エマ・スミスに一つの啓示を与えその中で、汝が見ざりし物につきてはつぶやくなかれと仰せになった。ほかの人の妻たちの多くが思っていたように、エマ・スミスはなぜ夫が自分にあの神聖な品々を見せないのかそのわけが解らなかった。主は世の人々に証する見証者となるため僅かの人を除き、それらが汝に見せられざりしはわが深き知恵より出でたるなり、とはっきり仰せになった。そして、主は彼女を「選ばれし婦」と呼びたまい、汝のもつ義務は聖霊の命じたもうままに聖典を釈き明し、教会員に説きすすめることであるが、オリヴァ・カウドリが自由に他の義務を果すことができるよう、特に汝が夫の書き物をするのを助けその書記として召されることであると仰せになった。

彼女はまた教会のため聖なる讃美歌を選ぶために選ばれた。主は「すべて心の歌はわれの喜びなり。然り、義しき者の歌はわれに対する祈りなり。彼らの頭に祝福を与えてその応えとなさん」と仰せになった。もしも彼女がたえず優しい心をもち、たがぶりを警め、主の誡命を守らないならば万人にあてはまる真理であるが、彼女は主の居りたもうところへ来ることができないのである。

伝道本部だより

バプテスマ

上辻和子	木村常子	渡辺衣弘
麻原江	望月登世治	浅川節子
浅川さとみ	中井春子	住吉正博
吉崎健治	高口希美子	今野範成
吉岡洋子	山本俊二	田鎖和了
田鎖豊子	神野和子	岩間旭
沢村ユリ子	阪本頼彦	岩井永一
疋田淳義	久住明子	村田吉男
高橋昌忍	三浦忍	白川永子
中谷桂子	樽多治子	阿倍野
北川政吉	北川兼子	堀田智春
秋本百々代	大野妙子	柴田三郎
園原美代子	林口守宏	阿部初男
高田禎子	川井多美子	志賀正二
清水美恵子	清水弘	竹山芳子
山下淑美	桑田忍	吉田次郎
古矢妙子	奥田節子	吉田淑子
田代淑子	吉田一	是安和子
是安厚子	横山キヌ子	福田則昭
遠藤美恵子	小野誠	佐々木幸子
佐々木良子	西ノ宮	西ノ宮
名古屋	松本	甲府
金沢	広島	福岡
〃	〃	〃
〃	〃	〃
〃	〃	〃

支部所在地

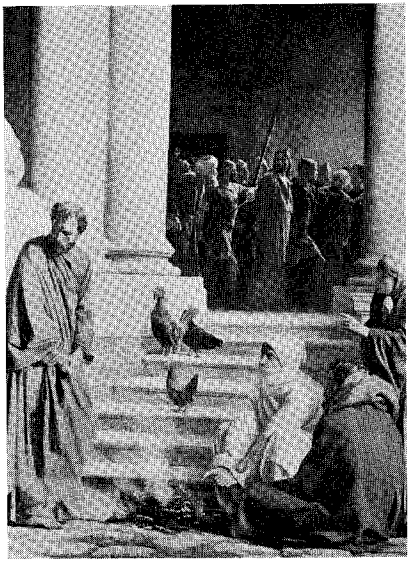
阿倍野　大阪市阿倍野区阪南町中一ノ三八
旭川　旭川市八条五丁目
福岡　福岡市東薬院二ノ四〇
群馬　高崎市並榎町二七五
広島　広島市古田町古江四〇〇ノ三
金沢　金沢市成瀬町一一ノ四　野田方
甲府　甲府市山田町六三
松本　松本市沢村町一六〇四
室蘭　室蘭市幸町八九
名古屋　名古屋市昭和区北山町三ノ四一
新潟　新潟市中大畑町五五七　金井方
電(二一八六六一)
西ノ宮　兵庫県西ノ宮市仁川町四ノ五四
岡町　大阪府豊中市岡町北二ノ一八
岡山　岡山市弓野町六一
小樽　小樽市富岡町一ノ三五
三ノ宮　神戸市灘区篠原本町四ノ三五
電(八二一六〇二)
札幌　札幌市北二条西二四丁目
仙台　仙台市光禅寺通り二八
電(五一〇八九七)
東京中央　東京都渋谷区八幡通一ノ三四
電(四〇八一三三〇七)
東京北・東京南　東京都豊島区千川町一ノ二三ノ七
東京都大田区南千束町二四九
電(七八二一六一三一)
東京西　東京都港区青山北町六ノ三四
山形　山形市八日町八五〇
柳井　山口県柳井市今市三九一
横浜　横浜市港北区篠原町二九
電(四九一八七七二)
普天間　沖縄宜野湾村野嵩区三二八
那覇　沖縄那覇市松尾区一三九

編集後記

「秋来ぬと目にさやかに見えねども風の音にぞおどろかれぬる」――自然の推移は知らぬ間に準備されていて、「今」の中に「未来」が着々と準備され動いている――こうした真理の姿をいと鮮やかにとり出して見せてくれる句です。夏の暑い盛りに「立秋」があるとは何ごと、と言うお方もあると思いますが、秋は夏の暑さの極わまった時すでに立っているのだという古人の考えが、いかにも真理を把握しているということを改めて考えていただきたいと思います。秋の立ったのはすでに先月のこと、今や「秋来ぬ」と誰も感ぜずには居られぬ此頃となりました。「聖徒の道」がうらぶれの秋を告げるものでなく「さや豆の太り」を思わせる希望の使者であるように、内容を整備し充実させ、本当に立派なものに育てて行きたい。これは編集同人たちだけの願いでなく、会員皆さまの願いでもあると思います。編集部員一同、皆さまの要望に応えるようこの「天高肥馬」の候にけんめいの努力をいたします。

（佐藤龍）

9月号表紙―キリストが十字架にかけられようとしているその時、ペテロはキリストの予言されたように、ニワトリが鳴く前に三度キリストを否定する。



月刊「聖徒の道」第五巻第九号
一九六一年九月一日発行
実価　一カ年　六〇〇円
半カ年　三〇〇円
一　部　五十円
編集兼発行人　ポール・C・アンドラス
発行所　東京都港区麻布広尾町十四
末日聖徒イエス・キリスト教会
北部極東伝道部

聖徒の道
一九五八年三月十七日
第三種郵便物認可 第五巻第九号
振替口座東京七六二二六番
発行人 ポール・C・アンドラス
編集人 末日聖徒イエス・キリスト教会 北部極東伝道部
発行所 東京都港区麻布広尾町十四

内案書図

教義と聖約
高価なる真珠　上質革製合本…一一〇〇円
モルモン経
教義と聖約　合本……三〇〇〇円
高価なる真珠
モルモン経（新訳）……二〇〇〇円
信仰箇条の研究……三三〇〇円
モルモンとは……一〇〇〇円
完成への道……二〇〇〇円
初等協会教科書……一五〇〇円
総合聖句の手引……一五〇〇円
日本系図探究要覧……一〇〇〇円
古代アメリカの生活……一〇〇〇円
旧約聖書物語……一五〇〇円
家督権の祝福……一〇〇〇円
扶助協会手引……五〇〇円

日曜学校用

宗教と生活 II……一五〇〇円
よきおとづれ……一〇〇〇円
聖書物語……一五〇〇円
福音の実践……一五〇〇円
聖典中の指導者……一五〇〇円

MIA用

役員と指導書の手引……一〇〇〇円
モルモン経研究ガイド……一〇〇〇円
MIA手引（付録）……五〇〇円
演劇指導者基礎知識と脚本集……七五円
演説が上手になる法……一五〇〇円
社交ダンス必携……一六〇〇円
新しいフォークダンス……五〇〇円

讃美歌及び歌集

末日聖徒讃美歌（新版）……四〇〇〇円
子等は歌う……一〇〇〇円
レクリエーション歌集……四〇〇〇円

……註文は各支部長へ……